

令和元年度 大阪府消費生活センター
『大学生期における消費者教育推進事業』

「産学協働人材育成機構 AICE を活用した大学生による消費者教育推進
の取組～大学教育課程との連携と SDGs をベースとしたリーダー会活動
の活性をめざして～」

事業報告書

令和2年3月

大学生期における消費者教育推進事業共同企業体
代表構成員：有限会社ダブル・ワークス
構成員：産学協働人材育成機構 AICE

目 次

第1章 取組について	4
1. 目的・趣旨	4
2. 実施内容	4
3. 実施体制	5
(1) 実施体制	5
(2) 本事業の特徴と強み	7
(3) 実施スケジュール	9
第2章 実施内容	10
第1節 消費者教育リーダー養成講座の開発及び実施.....	10
1. カリキュラムの考え方	10
2. 具体的に開講した養成講座カリキュラム.....	13
(1) 募集について	13
(2) 講座開催時期	13
(3) 講座内容(カリキュラム)	14
(4) 応募者数、修了者数	17
第2節 大学の教育課程において単位認定される教育プログラムづくりと試行.....	19
1. 大学教育課程の中での単位化についての試行.....	19
2. 単位互換制度の活用.....	20
3. 具体的に開講した養成講座カリキュラム.....	20
(1) 募集について	20
(2) 講座開催時期	21
(3) 講座内容(カリキュラム)	21
(4) 応募者数、修了者数	25
第3節 SDGs と消費者教育.....	27
1. SDGsと消費者教育.....	27
2. リーダー会にとってSDGsとは.....	27
第4節 大阪府消費者教育学生リーダー会の活性化に向けた活動及び体制づくり	29
1. 活動の柱.....	29
2. ヒト(組織と役割)	30

3. 大阪府消費者教育学生リーダー会について.....	32
4. 大阪府消費者教育学生リーダー会登録者数.....	34
5. 大阪府消費者教育学生リーダー会議.....	35
第5節 消費者教育学生リーダー認定	36
1. 認定要件.....	36
2. 認定の事務手続き.....	37
3. 大阪府消費者教育学生リーダー認定者数.....	37
第6節 大学生による消費者啓発に関するボランティア活動の実施	38
1. 実施したボランティア活動について.....	38
(1)大阪府立中央図書館主催「キッズライフアカデミー」.....	40
(2)大阪府金融広報委員会主催「夏休み親子イベント」.....	42
(3)大阪府消費者教育リーダー養成講座でのティーチング・アシスタント	44
(4)大和大学学園祭.....	45
(5)大阪府消費者フェアでの大阪府消費者教育学生リーダー会活動 の発表及びボランティア活動.....	47
(6)和歌山大学「消費者市民と社会」でのティーチング・アシスタント	49
(7)泉大津市「クリスマス親子イベント」	49
第7節 企業×学生交流会の開催	50
1. 大阪府消費者教育学生リーダー会主催による交流会の開催.....	50
(1)第1回企業×学生交流会.....	53
(2)第2回企業×学生交流会.....	57
(3)第3回企業×学生交流会.....	61
(4)大阪府消費者教育学生リーダー認定式.....	66
(5)企業×学生交流会各回のテーマについて.....	67
第8節 啓発活動・広報活動.....	69
1. 大阪府消費者教育学生リーダー会独自ホームページによる情報発信.....	69
2. チラシ等による広報.....	71
3. ホームページによる広報.....	72
4. 関西SDGsプラットフォームへのイベント掲載.....	73
第3章 取組に対する効果の検証.....	74
1. 効果検証のための調査について.....	74
2. 「養成講座受講者アンケート」から見た効果の検証.....	74

(1) アンケート結果(平成28、29、30、令和元年度).....	74
(2) 効果の検証(平成28、29、30、令和元年度).....	79
3. 交流会アンケートから見た効果の検証(学生・企業).....	80
(1) アンケート結果(第1回、第2回、第3回).....	80
(2) 効果の検証(平成28、29、30、令和元年度).....	83
第4章 今後への課題と展望.....	88
1. 今後への課題.....	88
(1) 大阪府消費者教育学生リーダー参加者の確保と拡大.....	88
(2) リーダー会参加学生の卒業と活動の継続.....	89
2. 今後への展望.....	90

資料編

資料1	「大阪府消費者教育リーダー養成講座」受講生募集ちらし
資料2	「大阪府消費者教育リーダー養成講座」テキスト
資料3	大阪府消費者教育学生リーダー認定要件チェックシート
資料4	大阪府消費者教育学生リーダー会登録用紙等
資料5	「大阪府消費者教育リーダー養成講座」修了証
資料6	大阪府消費者教育学生リーダー会議次第
資料7	和歌山大学教養の森 後期集中科目「消費者市民と社会」ちらし
資料8	大阪府立中央図書館主催「キッズライフアカデミー」ちらし
資料9	大阪府金融広報委員会主催「夏休み親子イベント」ちらし
資料10	大和大学学園祭 模擬店「フリーマーケット」パンフレット
資料11	大阪府消費者フェアちらし
資料12	企業×学生交流会ちらし・次第(第1回～第3回)
資料13	事業ホームページ
資料14	大阪府消費者教育学生リーダー会ホームページ
資料15	関西SDGsプラットフォーム イベント掲載
資料16	消費者教育リーダー養成講座受講生用アンケート質問紙
資料17	消費者教育リーダー養成講座アンケート結果
資料18	消費者教育リーダー養成講座アンケート結果(4年間集計)
資料19	交流会アンケート質問紙(学生用、企業用)
資料20	交流会アンケート結果(第1回、第2回、第3回)
資料21	交流会アンケート結果(4年間集計)

第1章 取組について

1. 目的・趣旨

平成24年12月に施行された「消費者教育の推進に関する法律」（以下、「新法」と記す。）における中心的課題は、①新しく定義された「消費者市民社会」の形成に人々が積極的に参画することであり、その実現のために、②「消費者教育」を幼児期から高齢者までの各段階に応じて体系的に行うことである。

本取組では、社会に出る直前の時期であり、大学を卒業して社会に出れば、社会を動かす重要な構成員の一人となる大学生を対象に、消費者として自立した判断能力を備え、さらには社会に出た時には消費者市民社会の実現に向け積極的に活動を行うことができる力を持つ大学生を育成する。また、消費者教育の担い手としてボランティア活動を行う大学生を育成する。さらには、平成28年度に立ち上げた大学生による大阪府消費者教育学生リーダー会（以下、「リーダー会」と記す。）が継続してボランティア活動を進めていくための体制づくりを行うことを目指すものとする。

2. 実施内容

本取組では、上記目的を達成するために、以下に取り組んだ。実施にあたっては、大阪府消費生活センターと適宜打合せをしながら円滑な事業推進を図った。

- ①大学生を対象とした消費者教育の担い手養成講座を実施し、大学生間での消費者教育・啓発を行うとともに、地域における消費者教育・啓発活動を行う大阪府の消費者教育の新たなリーダー（担い手）として輩出
- ② 府内大学の学生及び府内在住の大学生等で構成するネットワークの構築
- ③ 大阪府消費者教育学生リーダー認定の実施
- ④ 大学生による消費者教育・啓発、ボランティア活動の実施
- ⑤大学生間ネットワーク及び企業との連携形成促進のための交流会の実施
- ⑥リーダー会の体制づくり及び活動支援
- ⑦大学教育課程で開講される講座との連携（リーダー養成講座）及び実施
- ⑧消費者教育をSDGsへの取組のひとつとして位置付け
- ⑨上記の評価、検証

そのための具体的な実施内容は、以下であった。



3. 実施体制

(1) 実施体制

本取組を実施するにあたり、以下の実施体制により行った。

①実施体制に基づく責任者

氏名	所属・役職等	備考欄
難波 美都里	大学生期における消費者教育推進事業共同企業体構成員 産学協働人材育成機構AICE 統括コーディネーター、大学生期における消費者教育推進事業共同企業体代表構成員 有限会社ダブル・ワークス 代表取締役	業務推進担当責任者 トラブル・苦情処理 担当責任者 学生指導支援
鯨坂 恒夫	大学生期における消費者教育推進事業共同企業体構成員 産学協働人材育成機構AICE 企画運営委員長、和歌山大学 教授	業務責任者 業務実施責任者
木村 亮介	大学生期における消費者教育推進事業共同企業体構成員 産学協働人材育成機構AICE 戦略会議メンバー、和歌山大学 講師	業務担当
大串 恵太	大学生期における消費者教育推進事業共同企業体構成員 産学協働人材育成機構AICE 戦略会議メンバー、追手門学院大学 常勤講師	講座担当・ 業務担当
岡崎 裕	和歌山大学 教育学部 教授	講座担当・事業全体 監修
大木 清乃	大学生期における消費者教育推進事業共同企業体構成員 産学協働人材育成機構AICE 事務局、有限会社ダブル・ワークス	総務、会計、個人情報 報作業責任者

②実践にあたってのそれぞれの役割

本取組の効果的かつ円滑な推進と大学、自治体、企業等が協力する環境づくりのために、産学協働人材育成機構 AICE 会員※（大学、企業、経済団体、自治体）、地元企業等、地元消費生活センター等とが連携を図り、それぞれが以下の役割を担い事業を円滑に推進した。

◆産学協働人材育成機構 AICE
② 本取組の推進及びとりまとめ ③ 大阪府消費者教育リーダー養成講座の募集及び開講に係る業務 ④ 大学への協力依頼（教員及び学生の委員及び養成講座参加協力） ⑤ リーダー会活動の支援業務 ⑤学生消費者教育ボランティア活動の実施に係る支援業務 ⑥アンケート作成、実施、集計、検証等に係る業務 ⑦本事業の関係各部との連絡調整 ⑧「大阪府消費者教育学生リーダー」認定及び認定に係る業務 ⑨事業報告書の作成 ⑩会計等申請関連事務全般
◆地域活動団体、企業等：消費者関連専門家会議（ACAP）、日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会（NACS）、日本ヒーブ協議会、他
①消費者教育への助言協力 ②講座講師 ③イベント・交流会への協力 ④消費者教育ボランティア活動への協力、助言、広報協力 ⑤交流会への参加 ⑥アンケート回答協力
◆大学（教員、学生）：和歌山大学、AICE 会員大学、他
<教員>①研究協議会への参加協力 ②養成講座講師 ③アンケート調査紙作成、分析、検証協力 ④リーダー会活動指導助言 ⑤消費者教育ボランティア活動支援 ⑥報告書作成協力 <学生>①「消費者教育リーダー養成講座」を受講 ②「消費者教育」啓発ボランティア活動に参加 ③修了生のうち要件を満たした者は「大阪府消費者教育学生リーダー」として資格認定 ④リーダー会に登録した学生は、リーダー会活動に参加 <和歌山大学>①教育課程一般教養科目群「消費者市民と社会」（後期集中講義）を大阪府消費者教育学生リーダー認定プログラムとして設定し、開講 ②①の受講生をボランティア活動及び交流会に参加させる

※AICE 会員：（大学）和歌山大学、兵庫県立大学、追手門学院大学、大阪音楽大学、大阪工業大学、大阪成蹊大学、関西外国語大学、摂南大学、帝塚山学院大学、芦屋大学、大手前大学、大阪音楽大学短期大学部、羽衣国際大学

（企業、経済団体、行政等）：関西広域連合、大阪府、兵庫県経営者協会、和歌山県経営者協会、堺経営者協会、関西生産性本部、近畿日本ツーリスト(株)、(株)エピット、シュンビン株式会社、マーケティングメソッド研究所、(株)笑美面、(株)ナジック・アイ・サポート、NPO 法人 JAE、公認会計士若松尚也事務所、(協力) 近畿経済産業省

(2) 本事業の特徴と強み

①大学教育課程の中で単位認定できるプログラムづくり

本事業の共同企業体の1つである産学協働人材育成機構 AICE は大学を会員組織構成員にもつ団体であることから、大阪府消費者教育リーダー養成講座、ボランティア活動及び交流会を一体とした PBL※型プログラムを構築し、大学の教育課程の中で単位認定できる講座づくりを目指した。今年度は、和歌山大学で試行した。併わせて、次年度以降実施できる大学を増やすことを目指し、PBL を導入し大学外のプログラムや他との連携プログラムを単位化できる大学にアプローチした。

※PBL は、企業や地域、教員、もしくは学生自身が設定した課題や目標に対して、学生がチームで協力して取り組む教育手法です。現在の PBL は Problem-based learning (課題解決型学習) もしくは Project-based learning (プロジェクト型学習) と呼ばれ、能動的な学習 (アクティブラーニング) の効果が期待されます。(産学協働人材育成機構 AICE ホームページ「資料室」に掲載の「PBL ガイドブック」より引用。http://www.sneeds-b-kansai.jp/AICE/document.html)

②リーダー会活動の活性化を企図した独自ボランティア企画の実施

リーダー会のボランティア活動は、これまで他からの依頼が多かったが、昨年度の勉強会に続き、今年度は、独自企画のボランティア活動の実施を目指した。具体的に実施したのは、大和大学の学園祭で行った「フリーマーケット～ひととモノをつなぐ～」であった。具体化に向けてはリーダー会議で議論を進めていったが、実現できなかったものもあった。例えば、特に学生の希望が多かった若年層向けのプログラムで、高校生を対象とした18歳への成年年齢の引き下げに関する内容をプログラム化し卒業した高校で消費者教育を行う「母校でGO!」や、田尻町などで実施されている漁業体験を取り入れ小学生から大学生を対象とした普段口にしていない食べ物に関心を向けるプログラムである。前者は母校に依頼したものの具体化までには至らなかった。後者については、企画段階で詳細を詰め切ることができなかった。内容的には面白い企画との賛同を得ていたので、今後引き継ぐことを期待したい。他方、ACAP と連携したボランティア活動についても取り組み、活動の幅を広げていった。

③SDGs との関連について学びの充実と積極的な情報発信

SDGs と消費者教育との関連について、養成講座やリーダー会の活動を通して積極的に取り組んだ。元々リーダー会の活動の基盤となっている考え方の1つが「一人一人の消費者の力は小さいかもしれないが、多くが行うと社会問題や社会課題を解決できる大きな力になる」というものであることから、今年はこれまで以上に、SDGs の「つくる責任 つかう責任」を積極的に関連づけ、「持続可能な社会の実現 sustainable development」を目標の1つとして掲げる消費者教育を分かりやすく伝えると共に、「将来の社会をも変えていく可能性のある消費のもつ力」を伝えていくことを目指した。

なお、本事業の共同企業体の1つである産学協働人材育成機構 AICE は、関西 SDGs プラットフォーム※に参加していることから、本取組での活動について、本プラットフォームに積極的に発信していった。

※「関西 SDGs プラットフォーム」は、2015 年 9 月に「国連持続可能な開発サミット」において採択された「持続可能な開発目標：SDGs」の達成に向けて、関西の民間企業、市民社会・NPO・NGO、大学・研究機関、自治体・政府機関といった、多様なアクターが参加するプラットフォームとして設立された組織。（関西 SDGs プラットフォームのホームページより引用。）

④リーダー会既存メンバーと4期生の融合・成長を手助けする「リーダー会」構想と卒業生の対応について

リーダー会を継承発展させていくために（1）1・2・3期生と今年新たにリーダー会に参加する4期生とを融合させるとともに、（2）リーダー会の質向上を図るために養成講座、ボランティア活動、交流会等の企画づくり・準備活動等の機会を活用し、講座の段階からリーダー会の活動をとともに考えるなどのワークショップを取り入れ、1・2・3・4期生が親しくなる機会を充実させることを目指した。また、交流会の終了後にはリーダー会議を開催し、そこで交流会の振り返りを行うとともに、次の活動の担当を決めるなどリーダー会としての意識啓発と帰属意識を高めていく予定であったが、今年度は大学教育課程での科目と連携がスタートしたこと、また、本取組で開催の講座の受講生が少なかったことから、昨年度までのような新規メンバーと既存メンバーとの融合については十分に対応できなかった。他方、OB・OGで参加を希望する人はリーダー会OB・OGとして適宜参加してもらい、リーダー会の育成と継承の力となってもらうよう制度化した。（制度化については、30頁「卒業生の対応について」参照。）

(3) 実施スケジュール

本取組の実施スケジュールは、以下の通りであった。

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
養成講座	 講座内容検討・公募・講座開催									
ボランティア活動	 準備・イベント 準備 イベント									
リーダー会										
交流会	 準備・交流会① 準備・交流会② 準備・交流会③									
アンケート・効果の検証	 受講生調査 集計・検証 イベント調査 集計・検証									
資格認定										
報告書作成										

矢印部分は、本事業実施期間外であることから AICE にて支援した部分。
 期間は、平成元年4月1日～6月31日、平成2年3月17日～3月31日。

第2章 実施内容

第1節 大阪府消費者教育リーダー養成講座の開発及び実施

1. カリキュラムの考え方

平成24年12月に施行された新法における中心的課題は、①新しく定義された「消費者市民社会」の形成に人々が積極的に参画することであり、その実現のために、②「消費者教育」を幼児期から高齢者までの各段階に応じて体系的に行うことである。

本取組では、大学生を対象にした「大阪府消費者教育リーダー養成講座」を実施するものである。講座では、消費者として自立した自主的・合理的な判断、行動のできる知識を獲得し、消費者市民社会の実現に向け活動を行うことができる実践力を身につけることを企図して、消費者市民社会の一員であることを自覚し、消費者教育の普及・啓発の必要性を十分に理解した人材を養成し、大阪府で活動する消費者教育の新たなリーダー（担い手）として輩出することとした。

そこで、講座カリキュラムを開発するにあたっては、その内容について重点課題を5つ置き、この5点を中心にカリキュラム作りを行った。

第1に、「新法のめざす理念の理解を促すための教育プログラム」。新法で新たに定義づけされた「消費者市民社会」の考え方である持続可能な社会を実現するために、個々の消費者の特性や消費生活が多様であることを理解し、一人ひとりが自らの消費行動に対して自覚し行動する市民の育成に資する講座づくり。

第2に、「被害にあわないための啓発・教育プログラム」。2022年4月からの成年年齢の引き下げに伴い大学生が契約主体になることが可能になること（20歳以上は現在でも可）や、大阪府において被害の増加が問題になっているなど、消費者被害や特殊詐欺の予防や啓発活動を行うための基礎知識や現状への理解を促す講座づくり。

第3に、「消費者教育の手法を学ぶ教育プログラム」。消費者教育の担い手リーダーとして学んだことを具体的な活動にするための講座づくり。

第4に、「大学の教育課程において単位認定される教育プログラム」づくり。昨今の学生の学外活動への消極的な行動について多方面から報告がある。本事業でも、昨年度参加学生の確保の難しさに直面した。理由については、就職活動での売り手市場、授業出席への厳格化、バイトでの多忙などの影響が言われているが、はっきりしたことは解明できていないのが実情である。しかし、学生確保に工夫が必要なことは明確である。そこで、本取組では、大学の教育課程で単

位化される講座づくりを目指した。本事業で取り組んでいることは、学生たちにとって個人の消費行動の見直しにとどまらず、一人一人の消費行動が持続可能な社会の実現に向かう1つの大きな力となることを理解できる具体的なアプローチとなっており、学習者として社会課題に自律的に取り組んでいくことができるアクティブラーニングの枠組みになっている。SDGsの12番目「つくる責任 つかう責任」は本事業で目指すべき課題をより具体的に示している。そこで、できるだけ多くの学生が本講座を知り、参加しやすい環境づくりを行うために、大学の教育課程で単位認定されるプログラム作りを行い、モデル校で試行することで、今後、大学の教育課程の中で実施できる基盤づくりをめざすこととした。今年度は、和歌山大学の「消費者市民と社会」（2単位、南大阪地域大学コンソーシアム単位互換提供科目、高等教育機関コンソーシアム和歌山）で試行した。（資料7参照）

第5に、「リーダー認定された学生の講座へのティーチング・アシスタント（TA）参加」。

本取組では、講座を修了あるいは受講した学生が、消費者問題に関する教育・啓発のボランティア活動を行うことを課している。しかし、受講したばかりの学生は、何を伝えるべきか、実際どのように具体化していいのか、すぐに理解するのが難しい。そこで、本取組では、受講生が受講後の活動を具体的にイメージでき今後の活動を円滑に進めることができるようにするために、リーダー認定された1・2・3期生を養成講座のティーチングアシスタント（TA）として参加させる。担当するワークショップ等を通じて自らの体験で得られた知見や課題や問題点を具体的に受講生に伝えることで、リーダー会で求められるボランティア活動の内容について一人ひとりが当事者意識をもって考えることができるようカリキュラム作りを行った。

【カリキュラムの考え方～3部構成による講座づくり】

カリキュラムの構造は以下の3つのパート「基礎講座」、「応用講座」、「実践講座Ⅰ・Ⅱ」によって構成した。3部構成にするのは、各講座で学ぶことを明確にするとともに、近年大学生の多忙さを勘案し、各講座単位での部分受講を可能にすることで複数年にわたっての受講を可能にする道を拓き、リーダー会活動に参加しやすい環境づくりを行うためでもある。

<p>【基礎講座】 消費者教育・消費者市民社会の基本理念及び被害にあわないための消費者教育に関する基礎知識（講義）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者教育の考えかたに関する内容 ・新法（平成24年施行消費者教育推進法）に関する内容 ・社会発展における持続可能性（Sustainable Development）に関する内容 ・被害にあわないための消費者教育に関する内容 ・成年年齢引き下げによる消費者被害の危険 ・SDGsの中での「つくる責任 つかう責任」
<p>【応用講座】 消費者教育の手法及び教材開発に関する内容（講義&演習）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者教育のいろいろな手法・実践事例の紹介 ・消費者教育を企画・実施するにあたり、効果的な表現コミュニケーションについて学ぶ ・リーダー会の活動について考える
<p>【実践講座ⅠⅡ】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動を行うにあたっての基礎知識を学ぶ

<p>消費者教育の実践とその支援 について（講義と演習）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業や市民団体等で行われている活動を知る ・ 消費者教育学生リーダーとしての活動の在り方を考える～「企業×学生交流会の企画づくり」を通して考える～ ・ 大阪府消費生活センターの現状について理解 ・ 振り返り <ul style="list-style-type: none"> ○ 学んだことを振り返る ○ リーダーとして何をしたいか？について考える ・ 修了式
--------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【カリキュラムの考え方～消費者教育における循環型学習モデルに基づいた講座づくり】

カリキュラムづくりにあたっては、学生の消費者市民社会の理解を促すために、以下の学習モデルに基づいて行った。

本事業で取り組む「消費者教育」は、消費する市民としての資質（Consumer Citizenship）育成を通じた「消費者市民社会」の構築を求める。ここで問題とされているのは、民主主義社会における市民的資質そのものをどのように鍛え、そして育ててゆくのかという問いかけである。そこで、単に個人的な経済的利益だけではない、ここでの学びが再び広く市民の教育に還元してゆくような、以下の循環型の学習モデルを想定した。

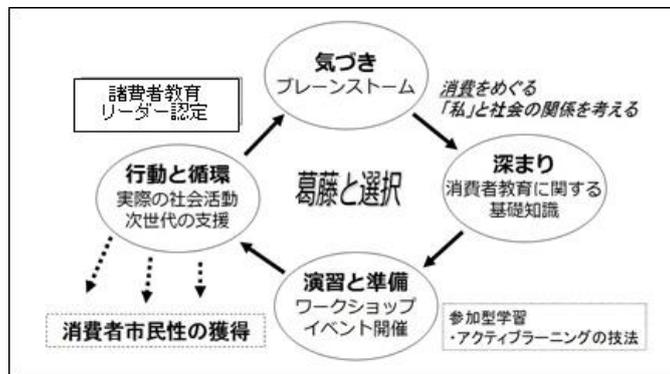


図1 消費者教育における循環型学習モデル

学習者は学習過程を通じて、自らの消費に関わる行動を検証し、行動が合理的か、不利益は生じないかといった個人としての価値（利益）判断をおこなうと同時に、時間・空間を超えて社会に対してどのような影響が及ぶかといった判断もあわせて行ないながら学習を進めた。こうした過程を通じて学習者は「消費者市民社会」の本質を学び、併せて自分自身がその一員となって社会の持続的発展に貢献すべき立場にあることを自覚する。その後、講座や様々なイベントなどを企画・実践し、リーダーとなって次世代の育成に貢献することで、循環の輪の中へ入ってゆく。こうした学習モデルの考え方に基づいて、「大阪府消費者教育リーダー養成講座」のカリキュラムを構成した。

2. 具体的に開講した養成講座カリキュラム

(1) 募集について（本取組自主催の講座）

■受講対象者：大阪府内大学、府内在住の大学生

■募集・広報：

- ・チラシを作成し、府内の全大学にDMを送付案内し、公募した。
- ・ホームページにより公募した。
- ・リーダー会1期生ネットワークを活用し、「リーダー会のホームページやツイッター等」によって公募を呼びかけた。
- ・産学協働人材育成機構 AICE のもつ大学ネットワークを使って、大学の教職員に呼びかけ、学生の推薦を依頼した。



募集チラシ (8/8~9/5)

(2) 講座開催時期

消費者教育リーダー養成講座を、下記の通り開講した。

基礎講座	<p>◆9月14日（土）10：00～12：30</p> <p>◆定員 30名</p> <p>◆2講座 150分、開講式含む</p> <p>◆会場：さかい新事業創造センター 1階多目的会議室</p>
応用講座	<p>◆9月14日（土）13：30～16：30</p> <p>◆定員 30名</p> <p>◆3講座 180分</p> <p>◆会場：さかい新事業創造センター 1階多目的会議室</p>

実践講座Ⅰ	◆9月15日(日)10:00~12:30 ◆定員30名 ◆3講座 150分 ◆会場:さかい新事業創造センター 1階多目的会議室
実践講座Ⅱ	◆9月15日(日)13:30~16:30 ◆定員30名 ◆3講座 180分、修了式含む ◆会場:さかい新事業創造センター 1階多目的会議室

(3) 講座内容(カリキュラム)

カリキュラム	講座を実施するにあたり、テキストを作成した。 資料2の通り(初回講座、追加講座)
担当講師	○岡崎裕 和歌山大学 教授(消費者教育学会会員) ○大阪府消費生活センター派遣講師 ○企業:川口徳子(日本ハム(株)、日本ヒープ協議会 副代表理事) ○ACAP:植村知佐子(消費者関連専門家会議(ACAP)関西支部副支部長、コンシェルジュ) ○NACS:瀬戸九美(日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会(NACS)西日本支部) ○大阪府消費生活センター担当者 <1・2・3期生による講座> ①リーダー会の事例紹介 ②こんな消費者教育活動を行いたい!(ワークショップ) ③リーダー会活動の企画を考えよう!(ワークショップ) ○戸嶋陽向、大矢萌々華(1期)、浦谷拓弥(2期)、岡橋拓摩(3期)
ティーチングアシスタント(TA)	大阪府消費者教育学生リーダー認定者(1・2・3期生)をTAとして活用。学生リーダー育成支援を行った。 ※リーダー認定者のロールモデルの1つとして受講生に見せる役割も担った。

なお、本養成講座は、大学で単位認定できるカリキュラム構成を想定している。今年度は、本カリキュラムを基本とした内容で単位認定を行う科目の開設を和歌山大学で行った。

消費者教育リーダー養成講座 カリキュラム

◆基礎講座 9月14日（土）10：00～12：30 会場：さかい新事業創造センター1階多目的会議室

日程	時限（分）	講座内容	講師（予定）
9/14 （土）	10:00 開講式 （10）	開講式	AICE企画運営委員長 鱈坂恒夫（和歌山大学教授） 大阪府消費生活センター所長
	10:10～ 10:30 1限目 （20）	◇オリエンテーション 本講座の目的理解	岡崎裕（和歌山大学教授）
	10:30～ 12:00 2限目 （90）	◇消費者教育の基礎理解①概論（講義） （1）消費者教育とは・新法がめざす消費者教育 （2）社会発展における持続可能な社会について （3）消費者問題を、自分の問題として、整理・理解する。 （ブレンストーム「消費の意義について」「消費と教育の関係」など） ※消費者市民社会について知り、消費者教育の必要性・内容を理解する	岡崎裕
	12:00～ 12:30 3限目 （30）	◇活動を通じた消費者教育に関する手法について①（演習） （1）新法がめざす消費者市民社会の実現に向けて、体験的な手法に基づいた消費者教育の方法について学ぶ ○賢い消費者になるということについて考える ○企業の活動を知り、消費者として何ができるかを考える	岡崎裕

◆応用講座 9月14日（土）13：30～16：30 会場：さかい新事業創造センター1階多目的会議室

日程	時限（分）	講座内容	講師（予定）
9/14 （土）	13:30～ 14:50 4限目 （80）	◇消費者教育の基礎理解②～企業活動からみる（講義） （1）企業の消費者教育活動について（40） （2）ACAPの活動紹介（20） （3）NACSの活動紹介（20）	川口徳子氏（日本ハム株式会社 お客様サービス部担当課長） 植村知佐子（消費者関連専門家会議ACAP）、 瀬戸九美（日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会NACS）
	14:50～ 15:20 5限目 （30）	◇消費者教育のいろいろな手法の紹介 消費者教育では様々な手法によって展開されているが、リーダー会の事例をいくつか紹介する。 （1）学生リーダー会について （2）大阪府消費者フェアでの活動 （3）親子イベントでの活動 （4）企業×学生交流会による啓発（5）独自勉強会 （6）ホームページによる広報	リーダー会
	15:20～ 16:30 6限目 （70）	◇活動を通じた消費者教育に関する手法について②（演習） （1）発達段階に応じた消費者教育に関する「教材」をつくろう ○「選択ジレンマ質問」を考え、ゲームの開発を通して具体的に考えていく ○ジレンマ問題を集めて発表&遊ぶ （2）振り返り	岡崎裕 リーダー会

◆実践講座Ⅰ 9月15日(日) 10:00~12:30 会場: さかい新事業創造センター1階多目的会議室

日程	時限(分)	講座内容	講師(予定)
9/15 (日)	10:00~ 10:30 7限目 (30)	◇ボランティア活動論(講義) (1) ボランティア活動に対する理解及び、実際にボランティア活動を行う際の難しさや危険等について学ぶ (2) 消費者教育を行うために必要なこと	岡崎裕
	10:30~ 11:30 8限目 (60)	◇企画づくりを考える(講義) 消費者教育に関する企画づくりに必要な考え方やスキルについて体系的に学ぶ	大串恵太(追手門学院大学)
	11:30~ 12:30 9限目 (60)	◇企業×学生交流会の企画を考えよう!① (1) リーダー会主催の「企業×学生交流会」の企画を考える。3つのチームに分かれ、テーマや方法について意見交換し、企画を検討する。 学生支援として、リーダー会がTAとして各チームに参加し、受講生へのアドバイス等を行う。	岡崎裕 大串恵太 リーダー会TA

◆実践講座Ⅱ 9月15日(日) 13:30~16:30 会場: さかい新事業創造センター1階多目的会議室

日程	時限(分)	講座内容	講師(予定)
9/15 (日)	13:30~ 14:30 10限目 (60)	◇企業×学生交流会の企画を考えよう!② (1) リーダー会主催の「企業×学生交流会」の企画を考える。9限目の続き (2) 企画案発表(5分×3チーム)	岡崎裕 リーダー会TA
	14:30~ 15:40 11限目 (70)	◇大阪府消費生活センターの現状について~行政が目指していること等を理解する ◇消費者被害に合わないために~消費者被害等の事例紹介	大阪府消費生活センター、 大阪府消費生活センター派遣講師
	15:40~ 16:10 12限目 (30)	振り返り「消費者教育リーダーになるために」 (1) 講座で学んだことについて振り返る (2) 消費者教育学生リーダーとして何をしたいか?について考える (3) リーダー会への参加について (4) レポート提出について	岡崎裕
	16:10~ 16:30 修了式 (20)	(1) 修了式 講座修了証の授与	岡崎裕

※消費者教育TA: 一定レベルの消費者教育を学び修了認定を受け、消費者教育の講座支援をおこなうことができるティーチング・アシスタント(TA)をいう。今後、受講生の中でリーダー認定された人は養成講座でTAを行うことができるようになる。

※講座支援として、AICE会員大学の教員が参加協力

<修了証>

上記全課程「基礎講座」「応用講座」「実践講座」を修了した者に対して、AICEから本講座の修了証を授与する。

<消費者教育学生リーダー認定>

リーダー認定については、別途認定要件を満たした者を対象に、大阪府消費生活センターから認定する。

(4) 応募者数、修了者数

講座の応募者数、修了者数は以下の通りであった。

本講座修了者には、修了証を与えた。

	9/14、9/15 受講生
応募者数	4名
講座出席者数（一部含む）	4名
講座修了者数	3名
講座一部のみ受講者数	1名 (基礎・応用のみ受講)
リーダー会登録者数	2名

※養成講座修了者3名のうち、1名はリーダー会登録がなかったため、リーダー会登録者数は2名。

大学別の内訳は以下の通りであった。

学校名	応募者数	1回生	2回生	3回生	4回生	院生 その他	修了者数	リーダー 会 登録者数
和歌山大学	2	2					2	2
帝塚山学院大学	1	1					1	0
大阪教育大学	1	1					0	0
合計	4人	4人	0人	0人	0人	0人	3人	2人

【講座の受講風景】





第2節 大学の教育課程において単位認定される教育プログラムづくりと試行

1. 大学教育課程の中での単位化についての試行

本取組の養成講座及びボランティア活動、交流会などの活動を含めたプログラムを、大学の教育課程において、単位認定科目に適うアクティブラーニングの手法を取り入れた講座として構築した。年々、養成講座の公募に対して学生の応募が減少していたことから、一昨年からのアプローチとして大学教育課程での単位化というルートの開拓を試みていた。そこで本年度、和歌山大学において講座の単位化を試行することに関して大学と交渉した結果、実施することが決まった。そこで、2単位が取得できるよう養成講座内容と時間を精査するとともに、ボランティア活動及び交流会企画・実践への参加について厳格化することとした。

大学で開講する講座内容については、基本部分は本養成講座に習うが、今後、参加大学を広げていくには個々の大学・学部・学科等の特徴を生かした講座づくりが求められることから、大学の事情に応じた柔軟な内容とすることとした。一方で、ボランティア活動や交流会については、本講座と和歌山大学の受講生が共に希望する活動に参加することとした。

単位認定にあたっては、以下を必須とした。

- 養成講座の全課程を修了する
- 交流会への参加を1回以上とする
- ボランティア活動、交流会等の企画づくり・準備活動に1つ以上参加する
- 最終レポートの提出単位認定されるために要する時間数は以下の通りである。

実施プログラム	実施時間	合計：講義 720分 (90分×8回) 実習 720分 (90分×8回) レポート
養成講座	12講座 180分×4日	720分
交流会	1回以上 360分×1日	360分
ボランティア活動	1回以上 360分×1日	360分
レポート	全課程終了後に提出	

大学の教育課程の中での単位認定については、「平成28年度『連携・協働による消費者教育推進事業』における消費者教育推進のための実証的共同研究」(文部科学省補助金事業)の中で実施した実績をもつ。昨今大学でもPBL(Program based learning)の導入が広がっており、本取組では、講座内容の充実に加え学生が実践する内容も多様であり時間数も十分確保されていることから、PBL型科目として単位認定は十分に可能である。

(2) 講座開催時期

和歌山大学 教養の森 後期集中科目「消費者市民と社会」を、下記の通り開講した。

基礎講座	<p>◆12月14日(土) 13:30~17:00</p> <p>◆3講座 190分、開講式含む</p> <p>◆会場：大阪府泉大津市テクスピア大阪小ホール</p>
応用講座	<p>◆12月21日(土) 9:00~12:30</p> <p>◆3講座 210分</p> <p>◆会場：大阪府泉大津市テクスピア大阪小ホール</p>
実践講座 I	<p>◆12月21日(土) 13:30~17:00</p> <p>◆2講座 190分</p> <p>◆会場：大阪府泉大津市テクスピア大阪小ホール</p>
実践講座 II	<p>◆12月22日(日) 9:00~15:00</p> <p>◆3講座 300分、修了式含む</p> <p>◆会場：大阪府泉大津市テクスピア大阪小ホール</p>

(3) 講座内容 (カリキュラム)

カリキュラム	講座を実施するにあたり、テキストは、本事業の養成講座の基本テキストを利用した。(資料2)
担当講師	<p>○岡崎裕 和歌山大学 教授 (消費者教育学会会員)</p> <p>○教員他2名 (上田慎二、石垣倫生)</p> <p>○泉大津市生涯学習課</p> <p>○大阪府消費生活センター派遣講師</p> <p>○和歌山県消費生活センター派遣講師</p> <p>(公開講座)消費者教育⇔SDGs フォーラム「消費者教育から SDGs へ」</p> <p>○行政：大阪府消費生活センター 和歌山県 泉大津市</p> <p><1・2・3期生による講座></p> <p>○リーダー会の事例紹介</p> <p>○親子イベント企画づくり (ワークショップ)</p> <p>○交流会企画づくり (ワークショップ)</p> <p>○浦谷拓弥(2期)、岡橋拓摩(3期)</p>

ティーチングアシスタント (TA)	大阪府消費者教育学生リーダー認定者 (1・2・3期生) を TA として活用。学生リーダー育成支援を行った。 ※リーダー認定者のロールモデルの1つとして受講生に見せる役割も担った。
-------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

12月14日 (土) AM (会場：大阪府泉大津市テクスピア大阪小ホール)

日程	時限 (分)	講座内容	講師
12/14 (土)	10:00 開講式	開講式	岡崎 裕 産学協働人材育成機構 AICE 鯨坂恒夫(和歌山大学教授) 泉大津市生涯学習課 大阪府消費生活センター他
	10:15～ 10:30 1限目	◇オリエンテーション 本講座の目的理解	岡崎裕 (和歌山大学教授)
	10:30～ 12:00 2限目 (90)	◇消費者教育の基礎理解①概論 (講義) (1) 消費者教育と消費者市民 (推進法を通して) (2) SDGs (持続可能な開発目標) と消費者教育について (3) 一人の市民として「消費者問題」を理解する (途中10分間の休憩)	岡崎裕
	12:00～ 12:30 3限目 (30)	◇活動を通じた消費者教育に関する実践① (演習) (1) 消費者教育推進法がめざす「消費者市民社会」の実現に向けた消費者教育の方法を知る (2) ステークホルダー (消費者・企業・行政) の位置付けを知る	岡崎裕

12月14日 (土) PM (会場：大阪府泉大津市テクスピア大阪小ホール)

日程	時限 (分)	講座内容	講師
12/14 (土)	13:30～ 15:00 4限目 (90)	◇消費者教育の基礎理解②～企業活動からみる (講義) (1) 大阪府・和歌山県の消費者教育に向けた活動紹介 (2) ACAP/NACS 等消費者教育関連諸団体の活動紹介 (3) 地元地域企業の SDGs に向けた活動について	大阪府消費生活センター 岡崎 裕 ACAP/NACS
	15:10～ 15:40 5限目 (30)	◇消費者教育の具体的事例紹介 (報告) 大阪府消費者教育学生リーダー会による実践事例の紹介 (1) 大阪府消費者フェアでの活動 (2) 親子イベントでの活動 (3) 企業×学生交流会による啓発 (4) 独自勉強会 (5) ホームページによる広報	大阪府消費者教育学生リーダー会
	15:50～ 17:00 6限目 (70)	◇活動を通じた消費者教育に関する実践② (講義・演習) (1) 地域社会における消費者教育の課題 ・泉大津市の紹介 ・泉大津市における消費者市民教育活動 (2) 消費者市民教育の実践に向けた企画と教材づくり ・消費者教育のための「親子イベント」の企画 ・イベントに向けた準備・教材づくり	岡崎裕 上田慎二 石垣倫生 泉大津市生涯学習課

12月21日(土) AM (会場：大阪府泉大津市テクスピア大阪小ホール)

日程	時限 (分)	講座内容	講師
12/21 (土)	09:00～ 09:30 7限目 (30)	◇ボランティア活動論(講義) (1) ボランティア活動に対する理解及び、実際にボランティア活動を行う際の難しさや危険等について学ぶ (2) 消費者教育の実践にあたって必要なこととは	岡崎裕
	09:30～ 10:30 8限目 (60)	◇企画づくり①(演習) 消費者教育のための「親子イベント」に関する企画づくりについて事業準備を進めながら実践的に学ぶ	岡崎裕 上田慎二 石垣倫生
	10:30～ 12:30 9限目 (120)	◇企画づくり②(演習) 消費者教育のための「親子イベント」に関する企画づくりについて事業準備を進めながら実践的に学ぶ	岡崎裕 上田慎二 石垣倫生

12月21日(土) PM (会場：大阪府泉大津市テクスピア大阪小ホール)

日程	時限 (分)	講座内容	講師
12/21 (土)	13:30～ 15:40 10限目 (130)	◇(公開講座) 消費者教育とSDGs フォーラム「消費者教育からSDGsへ」 <基調講演>(20) 岡崎裕(和歌山大学大学院教育学研究科教授) <事例紹介>(消費者被害の実例・行政の取り組み) ・大阪府:消費者被害の実例・行政の取り組み(15) ・和歌山県:消費者教育の取り組み(岡崎)(15) ・泉大津市:SDGsの取り組み(15) <パネルディスカッション>(70) テーマ「消費者教育からSDGsへ」	岡崎裕他 <パネリスト> 大阪府消費生活センター 上田慎二 泉大津市
	16:00～ 17:00 11限目 (60)	◇企画づくり③(演習) 消費者教育のための「親子イベント」に関する企画づくりについて事業準備を進めながら実践的に学ぶ	岡崎裕 リーダー会

12月22日（日）AM/PM（会場：大阪府泉大津市テクスピア大阪小ホール・泉大津市立図書館）

日程	時限 (分)	講座内容	講師
12/22 (日)	09:00～ 10:00 12 限目 (60)	◇企画づくり④（演習） 消費者教育のための「親子イベント」に関する企画づくりについて事業準備を進めながら実践的に学ぶ	岡崎裕 上田慎二 石垣倫生
	10:00～ 13:00 13 限目 (180)	◇消費者教育のための親子イベント①② 「まちの材料でおもちゃをつくろう！」	岡崎裕 上田慎二 石垣倫生
	14:00～ 15:00 14 限目 (60)	◇振り返りと修了式 ◆企業×学生交流会の企画づくり (1) リーダー会主催の「企業×学生交流会」の企画を考える。チームに分かれ、テーマや方法について意見交換し、企画を検討する。	岡崎裕 リーダー会

上記講座に加え、下記ユニット（大阪府向け、和歌山県向け）別のプログラムを組み込んだ。大阪府向けは、以下の「ユニットII」として、上記講義に加え以下の課題を課した。

■ ユニットII（10/23,12/15）（大阪府消費者教育リーダー養成講座との連携）

大阪府消費者教育学生リーダー会主催

第1回「企業×学生交流会」11月23日（土）13:00～（会場：和歌山大学岸和田サテライト）

第2回「企業×学生交流会」12月15日（日）13:00～（会場：あべのハルカス23F）

第3回「企業×学生交流会」2020年1月26日（日）13:00～（会場：あべのハルカス23F）

リーダー会は、消費者教育・啓発のリーダーとして活動できるような人材となるための基礎的な知識の習得を図る研修の受講者を中心に、府内で活躍する大学生等で構成する消費者教育・啓発活動を行うネットワークを構築し、大学生が消費者問題に関する啓発等をボランティア活動として実践するとともに、その活動が自発的かつ継続的に行われるための指導等を行う学生組織です。研修を受け、一定のボランティア活動に参加した学生を対象に、大阪府が消費者教育学生リーダーとして認定し、将来、大阪府の消費者教育の担い手として活躍することを目指しています。企業×学生交流会は、学生が消費者教育に取り組んでいる企業について理解を深め交流する場であるとともに、消費者教育に興味をもつ学生のネットワークを広げる場であることを目指しています。

和歌山大学教養の森講座「消費者市民と社会」においては、このイベントのいずれかに参加することを単位認定の要件とし、併せて大阪府内で活躍する大学生を対象に大阪府消費生活センターによる「大阪府消費者教育学生リーダー」として認定するための要件とします。

(4) 応募者数、修了者数

講座の応募者数、修了者数は以下の通りであった。
本講座修了者には、和歌山大学より単位が付与された。

	12/14、12/21、12/22 和歌山大学講座の受講生
応募者数	91名
講座出席者数（一部含む）	66名
講座修了者数	65名
講座一部のみ受講者数	1名
リーダー会登録者数	30名

大学別の内訳は以下の通りであった。

学校名	受講者数	1回生	2回生	3回生	4回生	不明※	修了者数	リーダー会登録者数
和歌山大学	63	15	4		2	42	62	29
桃山学院大学	3	0			1	2	3	1
合計	66人	15人	4人	0人	3人	44人	65人	30人※

※リーダー会登録者数は、和歌山大学の受講生による登録者数。今年度の登録者数は、本事業の養成講座受講生2名を加えて32名。

※不明：学年はリーダー会登録時の「要件チェックシート」に記載欄を設けているが、記入しない学生がいる。不明はその人数。





第3節 SDGs と消費者教育

1. SDGs と消費者教育

本取り組みにおいては、消費者教育をSDGsを達成するための1つの取組として明確に定義し、リーダー認定に向けた研修プロセスから消費者教育学生リーダーとしての対外的情報発信に至るまで、これを社会の持続的発展のための手立てとして位置づけた。2025年開催予定の大阪における万国博覧会を念頭に置きながら、その担い手となる若年層の育成を、消費者教育という視点の中で戦略的に進めることとした。SDGs全17項目においては、12番目に位置付けられる「生産と消費」に関する項目を含め、1番から15番までが課題ごとの切り口を示しており、16番目がこれら全体を流れる「平和と公正」という価値理念、そして最後の17番目がこれらを実現に導くためのパートナーシップの必要性を示している。今回提案の取り組みについては、今後求められるであろう各課題間の「パートナーシップ」への布石として、消費者教育の担い手育成を位置づけていくこととした。

他方、本事業の共同企業体の1つである産学協働人材育成機構AICEは、関西SDGsプラットフォームの参加団体であることから、本事業で実施する取り組みについては、適宜、本プラットフォームのホームページやメールマガジン等で情報を発信し、本取組がSDGsと価値理念を共有していることを明示することとした。

2. リーダー会にとってSDGsとは

リーダー会は、本事業から次のことを期待されている。

- ・卒業後、社会を支える主要な構成員として、自らの身を守り、かつ自立した判断力を備え、社会全体の持続的発展を担う「消費者市民」として、積極的に活動を行うことができる大学生を育成・輩出すること
- ・循環型消費者教育の担い手として、リーダー会を通じて社会的活動を行う大学生を育成・輩出すること
- ・上記を実現するために、消費者教育に基づくボランティア活動や企業等との交流を実践すること

そこで、リーダー会では、下記の2点を活動の指針となる基本的な考え方の柱として活動を行っている。

- ①一人ひとりの小さな消費行動が大きな社会問題の課題解決につながっている。
- ②そのことを実感し、行動につなげていくことをめざす。

その背景にあるリーダー会の思いとは、次のようなことである。

現代社会は大量生産・大量消費・大量廃棄型となっており、持続可能な社会への変革が求められている。企業は環境に配慮した企業活動を目指して、様々な工夫を実施している。一方で、持続可能な社会の実現のためには、消費者の協力も不可欠である。しかし、消費者は企業の環境への配慮を理解して、消費活動を行っているとは言い難い現状がある。そこでリーダー会では、一人の消費者として、企業の環境への配慮を学び、選択する際の視野を広げる必要がある、と。

こうした思いは、リーダー会専用ホームページのトップページで (http://www.aicep.com/consumer/student_leader/)、次のように呼び掛けている。

日々、様々なモノ・サービスを消費する中で、商品選択や取引を正しく行えているでしょうか？間違った消費選択や意図しない契約によってトラブルに巻き込まれないように商品知識を知ることが賢い消費者の第一歩です。また、大量消費社会になった今、持続可能な社会形成が求められており、自らの行動や選択の社会に対する影響を考えていかなければなりません。自らの行動、選択で皆さんと活動の輪を広げられることを心よりお待ちしております！

また、同ホームページのトップページの上段のスライド画像の1つでは、リーダー会がSDGsに関する活動を行っていることを明確に宣言している。

SDGs（持続可能な開発目標）の12番目「つくる責任 つかう責任」を企業と学生が共に考える活動を行っています！

私たちリーダー会では、「一人ひとりの小さな消費行動が大きな社会問題の解決につながっていることを実感し、行動につなげていく」ことを柱に、社会や地球の未来について責任をもった消費行動を行うことができるよう、ちょっと立ち止まって考え、行動する人を増やしたいと考えています。

これらの呼び掛け文や宣言文は、リーダー会の活動がSDGsの一翼を担う活動であるとの明確な定義づけになっている。中でも、持続可能な開発目標の12番目「つくる責任 つかう責任」を活動の1つの柱に置いていることがわかる。リーダー会にとって、SDGsを基本的な活動の柱の1つとして位置け、様々な活動を行っているのである。

第4節 大阪府消費者教育学生リーダー会の活性化に向けた活動及び体制づくり

本事業では、1年目に消費者教育学生リーダー養成を行う仕組みづくり、2年目にリーダー会の組織づくり、3年目にリーダー会の活動の主体化に取り組んできた。その結果、リーダー会が消費者教育を継続して活動していくための枠組みが整うと共に、学生たちの自発的な活動が生まれてきた。特に、リーダー会の中から自分たちが取り組みたい活動を自ら企画し実施する体制ができたと言える。

また、本事業は今年度で4年となり、平成28年度に1期生として入会した学生も今年度末には卒業を迎えることから、リーダー会メンバーで卒業生の対応についても検討し、リーダー会活動の基盤を整理することとした。

リーダー認定からリーダー会への登録の仕組みについては、昨年度に準ずることとした。

1. 活動の柱

具体的には、以下をめざして活動を具体化させていった。

- (1) 組織の充実：リーダー会組織は、「代表」のもとに、「広報部」「ボランティア企画部」を置き、「代表」と各部リーダー3名が中心となってリーダー会をけん引し、今後リーダー会が自立していくために必要な活動について検討するとともに、独自企画の実践をめざした。
- (2) メンバーの活性化：リーダー会のメンバーは、「広報部」「ボランティア企画部」のいずれかに必ず所属し、リーダー会活動での役割を明確にし、帰属意識を高めることを目指した。しかし、今年度は4期生のリーダー会参加者が例年と異なり、和歌山大学で提供された科目の受講生が多く、リーダー会登録及びメンバーのボランティア活動への参加を強化することが難しかった。次年度からは、今年度の体制がさらに進むことになることが予想されることから、メンバーの活動への参加をどのようにつなげていくか考えていくことが大事になってくる。
- (3) 教材の提供：リーダー会で実施してきた活動の中で消費者教育の教材として提供できるものはリーダー会ホームページを通じて提供し、リーダー会活動の成果を広く提供していくこととした。リーダー会には毎年ボランティア活動のオファーが数件あり、そこでの活動で実施している消費者教育プログラムが整備、充実してきている。今年度はホームページで提供する準備が整わなかったが、次年度以降、消費者教育プログラムの提供並びに提供する窓口についてもホームページ上に掲載できるようにすることが望ましいと考えている。次年度の検討課題としたい。

- (4) 活動指針の発信：リーダー会の活動の基盤となっている考え方の1つに、「一人一人の消費者の力は小さいかもしれないが、多くの人が行うと社会問題や社会課題を解決できる大きな力になる」というものがある。今年はいままで以上に、SDGsの「つくる責任 つかう責任」を積極的に関連づけ、「持続可能な社会の実現 sustainable development」を目標の1つとして掲げる消費者教育を分かりやすく伝えると共に、「将来の社会をも変えていく可能性のある消費のもつ力」を伝えていくこととした。その一環として、関西SDGsプラットフォームのホームページやメールマガジンを通じて、養成講座の受講生募集や交流会イベント情報を掲載してもらった。
- (5) 人を巻き込む：継続していくために、「広報部を中心に、リーダー会活動への理解者や協力者をふやすような「人を巻き込む」活動を積極的に行うことをめざす。具体的には、リーダー会独自ホームページを活用し、リーダー会がめざしている意義を明確にしていくことで、参加したいと思う学生に広くアピールしていく。
- (6) 卒業生の対応：リーダー会はこの3年間で卒業したメンバーが半数弱となった。リーダー会が学生組織である以上、今後も卒業していく学生が増えていく。そこで、この春に実施したリーダー会議で、リーダー会の卒業と卒業後の活動について検討を行った。その結果、リーダー会の卒業は特に定めず、その人に任せることが決まった。一方、卒業後の活動については、卒業時に卒業しても活動に参加するかを聞き、卒業後も協力を希望するOB・OGについては、リーダー会ネットワークを通じて情報を提供し、適宜リーダー会活動に参加してもらうことを制度化する。
- (7) 独自活動を広げる：リーダー会活動の自立に向けて活動を活性化させていくために、ボランティア活動や勉強会などのリーダー会自主企画に積極的に取り組んでいく。中でも、若年層を対象にしたプログラムに取り組む。例えば、2022年4月から成年年齢が18歳に引き下げられることを受け、高校生を対象にした成人を考えるプログラムなどに取り組む。
- (8) 大学学園祭での活動：これまで、追手門学院大学の学園祭で実施してきたが、それ以外の大学の学園祭でも消費者教育の活動を広げていくことに取り組む。

2. ヒト（組織と役割）

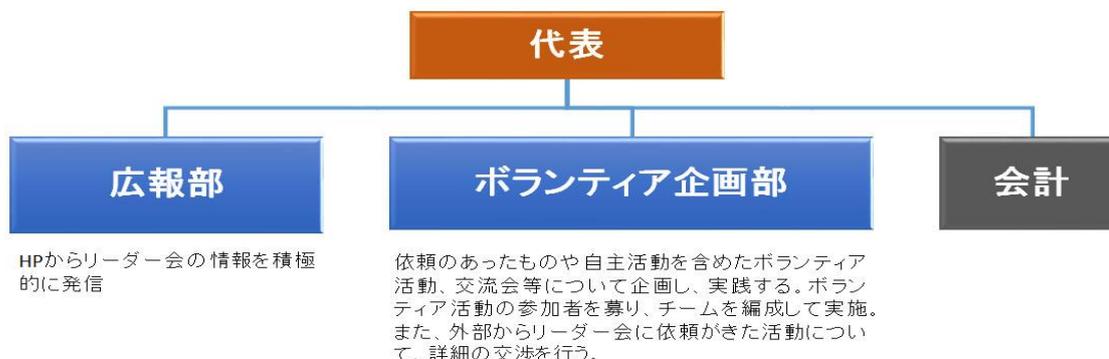
リーダー会組織は、これまで代表、副代表の下に、「広報部」「ボランティア活動部」「渉外部」「会計」の4つの部門を置き、「会計」以外の活動を学生たちが担うようになった。

この春に行ったリーダー会議の中でリーダー会組織について検討した結果、「ボランティア活動部」と「渉外部」の活動が一体となったほうが活動しやすい、また、指示系統をわかりやすくするために副代表をおかず代表だけとする、などの意見が学生から出た。これらを踏まえ、今年度のリーダー会組織は、以下で実施することとした。

そこで、本取組では、出来上がった枠組みを学生たちが活動しやすい組織にしていくために、

組織を下記のように一部変更し、更なる充実を図ることとした。

大阪府消費者教育学生リーダー会組織図(2019年度から)



【卒業生の対応について】

本事業は、平成 28 年度に 1 期生として入会した学生も今年度末には卒業を迎えることから、リーダー会メンバーで卒業生の対応についても検討した。その結果、以下の通りであった。

- ・卒業生もリーダー会メンバーとして継続する
- ・リーダー会用に開設したラインで卒業生にも継続して情報を提供する
- ・リーダー会活動から退会する卒業生はラインのメンバー登録を削除してもらう
- ・リーダー会活動に卒業生の参加を歓迎する
- ・卒業生に協力を求めたい場合が生じたときは協力を依頼する

各部の活動内容は以下の通りである。(◎はリーダー)

全体	代表：浦谷拓弥（2 期、大和大学 3 回生）
広報部	リーダー会専用 HP を立ち上げ、リーダー会の情報を積極的に発信。仲間を増やす情報の提供だけでなく、リーダー会が地域の消費者問題の啓発に役立つ学生組織であることを広くアピールし、協力者や賛同者を広く社会に求めることができるような情報発信を行う。 発信する内容や情報を企画し、とりまとめる。 発信する情報が不適切な内容にならないようリーダー会メンバーに徹底するとともに、管理運営を行う。
	◎岡橋拓摩（3 期、大和大学 3 回生） 戸嶋陽向（1 期、阪南大学 4 回生）
ボランティア企画部	依頼のあったものや自主活動を含めたボランティア活動、交流会等について企画し、実践する。ボランティア活動の参加者を募り、チームを編成して実施。また、外部からリーダー会に依頼がきた活動について、詳細の交渉を行う。 ◎大矢萌々華（1 期、阪南大学 4 回生）
会計部	リーダー会の会計を担当する。外部からの協賛金や謝金等の集約も担当。 ※今年は、担当や AICE 事務局が担うこととした。

3. 大阪府消費者教育学生リーダー会について

<リーダー会について（昨年度に準ずる）>

名 称	大阪府消費者教育学生リーダー会 愛称：ジャッキーJACCY(Japan Association of Consumer Citizenship for Youth)
会員登録対象者	①大阪府消費者教育リーダー養成講座（基礎、応用、実践）の全課程修了者（リーダー認定可能性者） ②大阪府消費者教育リーダー養成講座（基礎、応用、実践）の一部受講者（将来のリーダー予備軍、ボランティア活動協力者） ③本事業と連携した消費者教育講座を受講した大阪府内で活躍する大学生 ④リーダー会に登録後、大学を卒業した者
規 模	昨年度までのリーダー会登録者56名とは別に、今年度リーダー会新規登録者20名以上を目指す。昨年度までは15大学からの参加であるが、将来的には20大学以上の参加を目指す。
リーダー会の設置及びネットワーク構築	登録者による「消費者教育学生リーダー会」を設置し活動母体とする。一方で、SNS（LINE等）によるバーチャルネットワークを併設し、学生ネットワークの拡大を図る。
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー会による消費者教育の企画・開催・運営を定期的実施し、消費者教育の普及啓発を行う。 ・消費者教育ティーチング・アシスタント（TA）として、養成講座やイベント支援を行う。 ・他の組織から依頼を受けた消費者教育活動を行う。 ・交流会を3回開催する。企画・運営も担当。 ・大阪府から消費者教育関連情報の提供、消費者教育関連の活動支援等を受ける。 ・大阪府の消費者教育の推進に貢献する。 ・リーダー会専用ホームページ等を通じて情報発信する。
学生リーダー会議	リーダー会に登録したメンバーによるリーダー会議を置く。本会議では、リーダー会で検討すべき案件について議論し、決定する。会議の開催にあたっては、事務局が支援を行う。案件によっては、適宜教員等が支援を行う。
リーダー会代表等及び各部メンバーの決定	リーダー会の代表、各部リーダーは、リーダー会議において決定する。また、登録者全員がいずれかの部に参加する。複数の部署に所属することも可とする。
継続性	リーダー会専用ホームページ並びにSNS（LINE等）を通じてそれぞれが友人に参加を呼びかけ、学生ネットワークの拡大を図る。

入会	所定の大阪府消費者教育学生リーダー会登録用紙(資料4)に記入し、事務局へ提出する。
退会	リーダー会活動から退会する。 退会者は、ラインのメンバー登録を削除する。
登録内容	<ul style="list-style-type: none"> ・養成講座の履修履歴 ・ボランティア活動履歴 ・リーダー認定（認定されているか否か） ・活動参加希望、情報提供希望等
学生指導支援員の導入	リーダー会の活動を支援し効果を高めるために、学生活動を指導支援するための支援員を置く。支援員は、学生の主体的な活動ができるよう指導・助言を行う。
学生の知識・スキル向上のための研修	活動内容に応じて、必要であれば適宜、学生の知識・スキル向上のための研修を企画し、実施する。研修企画は学生が行う。 交流会企画・運営については、先輩メンバーが指導、支援する。
リーダー会専用ホームページによる情報発信	<p>リーダー会「広報部」を中心に、専用ホームページを通じて学生の顔が見えるホームページづくりを行い、リーダー会を広く広報していく。内容は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダー会について紹介 ・活動実績の紹介（ボランティア活動、企業×学生交流会等） ・リーダー会への参加呼びかけ&参加する方法の告知 ・リーダー会の日常的な活動をみえやすくするために facebook やツイッターなどの枠をつくり、随時リーダー会の活動を紹介していくなど、顔の見える HP づくりをする ・外からのリーダー会活動へのオファーの受付ページを作成（将来的に）。オファーに対する呼びかけ&できることを提示 ・リーダー会が発信する消費者教育辞典。消費者教育に関連する用語だけでなく、リーダー会から生まれた独自の造語を発信することで、リーダー会が届けたい思いを伝えていく。 ・開発した教材を紹介 <p>※情報発信については、広報部が定めた情報発信ルールに従う。</p>
大学の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・AICE 会員大学（13 大学、1 短大）以外の大学に AICE ホームページを通じて参加の呼びかけを行う。AICE の会員大学は、今後も増加する可能性があり、大学の拡大にも寄与できる ・リーダー会の学生が SNS (LINE 等) によるネットワークを通じて、他の大学の学生たちにも参加を呼びかける ・大学教育課程との連携することで、受講生、大学を広げていく

4. 大阪府消費者教育学生リーダー会登録者数

令和元年度の新規「大阪府消費者教育学生リーダー会」登録者数は、以下の通りであった。

学校名	登録者数
和歌山大学	31
帝塚山学院大学	0
大阪教育大学	0
桃山学院大学	1
合計 2大学	32人
1回生	16
2回生	5
3回生	0
4回生	3
不明※	8

期生	登録者数	令和元年度 在校生数	登録時の学年					
			1回生	2回生	3回生	4回生	院生他	不明※
1期生(H28年度)	21	6	6	1	12	2	0	0
2期生(H29年度)	19	9	4	5	6	1	3	0
3期生(H30年度)	16	16	3	7	6	0	0	0
4期生(R1年度)	32	32	16	5	0	3	0	8
合計	88	63	29	18	24	6	3	8
学校名（登録時所属学校名）		登録者数（卒業生数）						
大阪音楽大学		1 (1)						
和歌山大学		37 (6)						
追手門学院大学		17 (3)						
大阪成蹊大学		7 (5)						
芦屋大学		2 (2)						
帝塚山学院大学		4 (1)						
羽衣国際大学		5						
大和大学		2						
大阪大学		1						
大阪教育大学		2 (2)						
大阪大谷大学		2 (1)						
桃山学院大学		1						
大阪工業大学		1 (1)						
阪南大学		4 (1)						
近畿大学		1 (1)						
大阪経済大学		1 (1)						
合計 16大学		88人 (25)						

※不明：学年はリーダー会登録時の「要件チェックシート」に記載欄を設けているが、記入しない学生がいる。不明はその人数。

4年間の「大阪府消費者教育学生リーダー会」登録者数は、以下の通りであった。

上記の通り、在校生は、1期生は21名の登録者のうち6名、2期生は19名の登録者のうち9名、3期生は16名の登録者に加え、今年度4期生は32名で、今年度のリーダー会登録者合計は88名、16大学であった。卒業した学生は25名となった。

5. 大阪府消費者教育学生リーダー会議

リーダー会では、学生リーダー会議を設置し、決める必要のあることや検討する必要があることについて、会議内で議論する。会議は、リーダー会代表により召集した。また、リーダー会が発足して依頼、本事業の期間内以外（3月下旬から6月末）にも、リーダー会に協力依頼が舞い込むようになっていたが、それらの案件についても、リーダー会「ボランティア企画部」で対応し、今期のリーダー会につなげることができた。連携案件については連携相手との打合せの場を設け、リーダー会メンバーが参加し具体的な検討を行った。

今年度開催した学生リーダー会議は以下の通りであった。

会議	日時	場所	内容	参加者
第1回 ※	平成31年4月 26日（金） 18:00～20:00	梅田シルタス 10 階会議室 A （大阪駅前第三 ビル）	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー会の組織づくり～役員選出 ・金融広報委員会からのボランティア協力依頼について（ボランティア企画部） ・やってみたい独自企画について ・卒業時の対応について 	1期生 2名 2期生 1名 3期生 1名
特別 ※	令和元年 6月 7日（金） 17:00～18:00	さかい新事業創 造センター1階 （AICE 事務局）	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府立中央図書館「キッズライフアカデミー」の対応について 	2期生 1名 リーダー
第2回	令和元年 7月 7日（日） 10:00～12:00	梅田シルタス 10 階会議室 B （大阪駅前第三 ビル）	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府中央図書館「キッズライフアカデミー」について ・大阪府金融広報委員会主催 夏休み親子イベントについて ・大阪府消費者教育リーダー養成講座について ・阪南大学・大和大学の学園祭への参加について 	1期生 2名 2期生 1名 3期生 1名
特別	令和元年 7月 18日（木）	中央図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府中央図書館「キッズライフアカデミー」について担当者と打ち合わせ ・会場下見 	2期生 1名 リーダー
第3回	令和元年10月 18日（金） 19:00～21:00	さかい新事業創 造センター1階 （AICE 事務局）	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回、第2回交流会の企画会議 	2期生 1名 3期生 1名 4期生 3名

（※は事業期間外。※会議室の費用は、産学協働人材育成機構 AICE が支援。）

第5節 消費者教育学生リーダー認定

1. 認定要件

本事業では、下記の要件を満たした大学生を、大阪府が消費者教育の学生リーダーとして認定し、将来、大阪府の消費者教育の担い手として活躍することを目指した。なお、今年度のリーダー認定目標人数を20名以上に置いたが、最終的な認定者は28名と大幅に超えた。理由は、和歌山大学「消費者市民と社会」を受講した学生のリーダー認定者が多かったことによる。

【リーダー認定の要件】以下の要件をすべて満たした者を認定する。

- (1) 大学生期における消費者教育推進事業の消費者教育リーダー養成講座の全課程を修了した者
- (2) 以下のいずれかのボランティア活動に1つ以上参加した者
 - ①消費者教育に関するイベント等の企画・運営
 - ②消費者教育のファシリテーター
 - ③消費者教育に関するティーチング・アシスタント（TA）
 - ④幼小中高校、大学、市民を対象にした消費者教育の企画・運営
 - ⑤消費者教育スキルアップ研修の企画・運営
 - ⑥消費者教育に関する教材、PRパンフレット等の企画・制作
 - ⑦大学生に向けた被害にあわないための消費者教育
 - ⑧その他の消費者教育
- (3) 「大阪府消費者教育学生リーダー会」に登録した者

これまで、上記認定要件の前提として、大阪府に在住又は在学が必須要件であった。しかし、今年度の受講生で上記要件を満たす学生の中には、大阪府在住又は在学ではない学生が数多く出てきた。理由は、昨年度までは、リーダー養成講座の応募要件に大阪府在住又は在学を入れていたことから、そもそも他府県の学生が受講することがなかった。しかし、今年度、和歌山大学で開講した科目の修了生が65名おり、その修了生の中にはリーダー認定要件を満たすもの大阪府在住又は在学でない学生が多く含まれていたからである。

ただ、上記修了生で大阪府在住又は在学ではない学生も、リーダー会に登録し、大阪府内の消費者教育普及啓発活動に参加する学生が一定数存在したことから、大阪府では、従来の基本的な認定要件であった「大阪府在住又は在学」の要件を外し、大阪府下で消費者教育の普及啓発の担い手として活動し上記認定要件を満たす学生については全員「大阪府消費者教育学生リーダー」として認定することが決定された。その結果、今年度リーダー会に新規に登録した学生のうち、資格認定者は28名と大きく増加した。

2. 認定の事務手続き

「大阪府消費者教育学生リーダー」の認定に際しては、以下の手順で手続きを行った。

【リーダー認定の事務手続き】

認定するリーダーの名称	大阪府消費者教育学生リーダー
① 認定要件の確認	大阪府消費者教育リーダー養成講座の修了生を対象に、上記の認定基準を満たしているかどうかを「認定要件チェックシート」(資料3)によって確認。複数年にわたって養成講座を修了した学生にも対応できるようにシートを作成。
②リーダー就任意思の確認	上記①を確認する際に、リーダーに就任する意思があるかどうかを「認定要件チェックシート」(資料3)によって確認。
③リーダー認定	上記①を満たし、②でリーダー就任意思確認ができた者について、「大阪府消費者教育学生リーダー」として認定する。

3. 大阪府消費者教育学生リーダー認定者数

令和元年度の新規「大阪府消費者教育学生リーダー」認定者数は、以下の通りであった。

学校名	認定者数
和歌山大学	27
桃山学院大学	1
合計 2大学	28人
1回生	13
2回生	5
3回生	0
4回生	3
不明※	7

※今年度までの認定者数は84名となった。

※不明：学年はリーダー会登録時の「要件チェックシート」に記載欄を設けているが、記入しない学生がいる。不明はその人数。

第6節 大学生による消費者啓発に関するボランティア活動の実施

1. 実施したボランティア活動について

消費者教育学生リーダー会の活動を通じて、大学生による消費者啓発・ボランティア活動を実施した。リーダー会活動には、学生指導支援員を置き、大学生の主体的な活動を支援した。

リーダー会のボランティア活動では、リーダー会に登録している大学生及び大阪府消費者教育学生リーダー認定された大学生が、同じ大学の学生や他大学の学生とグループを組んで、学内及び地域で消費者問題に関する教育・啓発のボランティア活動を主体的に行うことが重視されている。

本取組では、1・2・3期生と4期生と一緒に消費者問題に関する教育・啓発のボランティア活動について、企画し、実施する取組をプログラム化し、事務局はその活動を支援する。今年度は、リーダー会活動の活性化をめざして、自分たちがやりたいと思う自主企画のボランティア活動に力を入れて取り組んだ。さらに、ACAPと連携したボランティア活動にも取り組み、活動の幅を広げていった。リーダー会議で実施したいボランティア活動について意見交換したところ、小中高大の若年層向けのプログラムの希望が多数だった。中でも、18歳の成年年齢引き下げに関するもの、自分たちが食べているものに関心を高めるものなどへの希望が多かった。

一方、外部から認知度が高まっているリーダー会に協力依頼のあった案件については、ボランティア企画部が窓口となり、リーダー会で相談し、受託できるものについてボランティア活動を行うこととした。

今年度実施したボランティア活動は、以下の通りであった。なお、※のついているものについては、事業開始前（7月以前）から準備する必要があったことから、1・2・3期生が担当した。

	名称	日時	対象	会場	内容	ボランティア回数	参加学生
1 ※	大阪府立中央図書館「キッズライフアカデミー」	7/30（火） 14:10（60分）	小学校5～6年生 約40名	同図書館会議室	「おこづかいについて考えよう！」お金をもらう仕組みを知り、おこづかいを大切に使うものだと実感してもらう。	7/4 7/12 7/16 7/17 7/20 7/30	延15人 当日8人
2 ※	大阪府金融広報委員会主催夏休み親子イベント	8/8（木） 14:00（60分）	小学3～6年生 保護者	日本銀行大阪支店	「おこづかいについて考えよう！」お金をもらう仕組みを知り、おこづかいを大切に使うものだと実感してもらう。	6/18 7/16 7/24 8/8	延13人 当日8人

	名称	日時	対象	会場	内容	ボランティア回数	参加学生
3	大阪府消費者教育リーダー養成講座	9/14 (土) 10:00 集合 9/15 (日) 10:00 集合	学生	さかい新事業創造センター1階多目的会議室	本事業の学生リーダー養成講座で TA として支援 & リーダー会の取組紹介。	8/26 9/2 9/6 9/9 9/13 9/14 9/15	延 14 人 9/14 当日 4 人 9/15 当日 2 人
4	大阪府消費者フェア	11/2 (土) 11:00 集合	府民	大阪府南港咲洲庁舎1階のフェスパ	大阪府が毎年実施している府民向け消費者イベント	10/24 10/28 10/30 11/1 11/2	延 8 人 当日 6 人
5	大和大学学園祭	10/13 (日) 10:00~ 17:00	大学生、他	大和大学	学園祭でブース出展：フリーマーケット	5/22 9/6 9/12 10/1 10/13 12/20	延 12 人 当日 4 人
6	母校でチャレンジ「母校でGO!」		高校生		母校で、消費者教育を行う。	7月~ 8月 打診	母校へ連絡者 2 人
7	和歌山大学「消費者市民と社会」	12/14 (土) 12/21 (土) 12/22 (日)	大学生	大阪府泉大津市テクスピア大阪小ホール	和歌山大学単位互換科目「消費者市民と社会」の授業をTAとして支援 & リーダー会の取組紹介、交流会企画書づくり支援	12/5 12/6 12/10 12/14 12/22	延 8 人 12/14 2 人 12/22 1 人
8	泉大津市「クリスマス親子イベント」	12/22 (日)	市民(親子づれ)	大阪府泉大津市テクスピア大阪小ホール	泉大津市の親子連れ市民を対象としたクリスマスイベント。毛布の廃材を利用して、クリスマスの飾り等を子どもと一緒に作成し配布	12/21 12/22	延 132 人 当日 66 人
9	大阪府消費者保護審議会	2/17 (月)	審議会委員	大阪赤十字会館	大阪府消費者保護審議会で、リーダー会活動を紹介	1/26、 2/1,2/17	延 3 人

(1) 大阪府立中央図書館主催「キッズライフアカデミー」

大阪府立中央図書館では、毎年夏休みに「キッズライフアカデミー」をACAPと連携して実施しており、今年度は、リーダー会にイベントへの協力依頼がきた。本取組で連携協力いただいているACAP西日本支部啓発・交流部では、社会教育施設である大阪府立中央図書館が実施する小学生を対象とした「キッズライフアカデミー」に協力し、2012年より講師派遣を行っていることから、リーダー会に講座を1つ担当することへの協力依頼があった。

開催時期が7月30日で、5月下旬にACAPよりオファーがあったことから、本事業外の時期ではあったが、AICEがリーダー会の支援を行い、実施までの準備を円滑に進めていった。

当日は、大学の前期試験期間と重なったことから、リーダー会のメンバー以外に5名が参加協力した。担当するイベントの企画及び当日の運営方法を検討するために、6月から7月にかけてリーダー会代表が窓口となって、中央図書館担当者と打ち合わせを行った。

企画内容は、例年金融広報委員会で実施している親子イベントのプログラム「おこづかいについて考えよう！」を実施することとした。本プログラムはすでに3年間実施した実績をもつことから、プログラムの詳細及び準備についてはリーダー会メンバーでの共通理解が十分に浸透しており、メールやラインでのやりとりで準備を進めていくことができた。一方、金融広報委員会主催の親子イベントでは親子の参加者があり、親と子(小学3年生～6年生)それぞれのプログラムを実施していたが、本イベントでは、参加者は小学5年と6年の子どものみであることから、当日のリハーサルでは、最初に、今回の企画担当であるリーダー会代表から本イベントの概要説明及びプログラム全体について説明があった。続いて、全体ファシリテーターから各テーブルでのファシリテーターに対して、高学年向けであることを改めて確認し、言葉かけ等の対応について再確認して本番に臨んだ。

キッズライフアカデミーでは、初めて大学生が担当した講座であったとのこと。参加した子どもたちと年齢的に近い大学生ということで、子どもたちの活発で楽しそうな活動状況が各テーブルで繰り広げられた。イベントを見学していた保護者からは、「おこづかい」に習い事や買ってもらったものも含まれるといった理解を子どもたちに示してもらったことが良かったとの意見が聞かれた。本イベントではおこづかいについて、子どもたち、保護者それぞれがちょっと立ち止まって考える場となり、参加者、主催者からも好評価を得た取り組みとなった。

<イベントの実施概要>

○開催時期：7月30日(火) 14:00～15:10(70分)

○対象：小学5年生、小学6年生 42名

○会場：大阪府立中央図書館

○テーマ：ワークショップ「おこづかいについて考えよう！」

- ・おこづかいをもらうことにありがたみを感じてもらう
- ・お金をもらう仕組みを知り、おこづかいは大切に使うものだと実感してもらう
- ・おこづかいには、習い事や買ってもらったものを含まれるという理解を伝え、親に感

謝の気持ちを伝える

○内容：

- ・最初にパワーポイントを用いておこづかいやお金について提起する（5分）
- ・子供8グループの班を作る
- ・基本は、グループで以下のテーマについて話し合ってもら

<子どもワーク>

- ① どんなときに親からお金をもらって（買ってもらって）いるか？（15分）
- ② どんなふうに使ったらいいのかな？（15分）
- ③ グループで目標などこれからどうするかを考えてもらい、発表してもら（15分）
- ③感謝の気持ちを伝えようのメッセージカード「おこづかいマスター」づくりの時間（10分）

・ありがとうを伝えよう

・これから〇〇をがんばります

- ・最後にメッセージカード「おこづかいマスター」を掲げて写真撮影。（5分）

・まとめ（5分）

○出演者：リーダー会8名

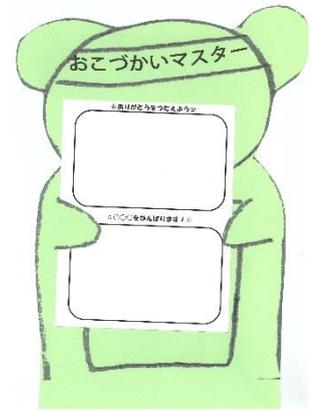
企画：浦谷拓弥（大和大学）

全体ファシリテーター：大矢萌々華（阪南大学）

チームファシリテーター：

戸嶋陽向、リーダー会以外の学生4名（阪南大学）、浦谷拓弥、リーダー会以外の学生1名（大和大学）

○参加者：子ども42人（見学の保護者3人）



(2) 大阪府金融広報委員会主催「夏休み親子イベント」

大阪府金融広報委員会では、毎年夏休みに親子イベントを実施しており、昨年度に引き続き今年度も、リーダー会にイベントへの協力依頼がきた。今年3年目となる。

時期が8月初旬ということで、今年度のリーダー養成講座開講前になることから、1・2・3期生に本取組への参加を依頼した。当日は、リーダー会のメンバー以外に4名が参加協力した。担当するイベントの企画及び当日の運営方法を検討するために、学生リーダー会議を事前に1回開催し、企画内容の詳細を議論し、当日の担当者を決定していった。

今年のテーマは、リーダー会で検討した結果、昨年度好評だった小学生に身近な「おこづかい」を再び取り上げることで、昨年度のプログラム「おこづかいについて考えよう！」をリーダー会のオリジナルプログラムとしてモデル化することを目指した。そこで、プログラムづくりでは、昨年度の課題を改善し、子どもたちにより分かりやすく、自分の問題として考えてもらえることを目指した。また、子どもたちから意見が出やすくするために、各テーブルでファシリテーターを担当する学生たちの言葉かけの仕方について、直前のリハーサルで確認しあった。特に、昨年度の調査から、おこづかいをもらっていない子どもが多いことが分かっていたことから、「おこづかい」を広く捉え、通常のおこづかい以外にも習い事や塾やプレゼントなど、親から与えられているものも含めておこづかいとして捉えることを再確認し、子どもたちからいろいろな意見が出るように意識して対応することとした。

保護者については、昨年度、親担当ファシリテーターが目的をうまく伝えることができなかったとの不満がアンケート結果に出ていたことから、今年度は、保護者に対しても本プログラムの目的をしっかりと理解してもらった上で、意見交換してもらうようにした。そこで、おこづかいを与える側として、おこづかいに込めた意味や子どもたちにどのように使ってもらいたいかなどについて、参加した保護者が誰でも試行錯誤していると思われるテーマについて意見交換し、共有してもらった。

最後に、これも昨年度非常に好評で今年度も是非取り入れてほしいと要望のあった、子どもたちから保護者に対して感謝の気持ちとおこづかいをどのように使うかの宣言を込めたメッセージカードを作成して、保護者に渡し感謝の気持ちを伝えた。

本イベントではおこづかいについて、子どもたち、保護者それぞれがちょっと立ち止まって考える場となり、参加者、主催者からも好評価を得た取り組みとなった。

<イベントの実施概要>

○開催時期：8月8日（木）14：00～15：00（60分）

○対象：小学3年生から小学6年生、保護者

○会場：日本銀行大阪支店

○テーマ：ワークショップ「おこづかいについて考えよう！」

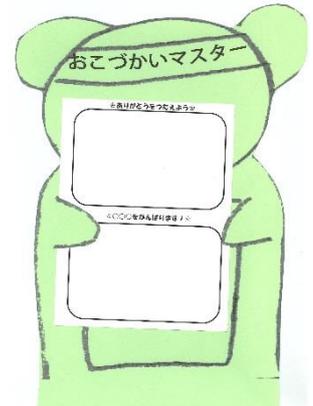
- ・おこづかいをもらうことにありがたみを感じてもらう
- ・お金をもらう仕組みを知り、おこづかいは大切に使うものだ実感してもらう
- ・親がなぜおこづかいを渡すのか話し合ってもらい、親同士の気持ちを知る

○内容：

- ・最初にパワーポイントを用いておこづかいやお金について提起する（5分）
- ・子供4グループ、大人2グループの班を作る
- ・基本は、グループで以下のテーマについて話し合ってもらおう

<子どもワーク>

- ① どんなときに親からお金をもらって（買って）もらっているか？（10分）
- ② どんなふうに使ったらいいのかな？（15分）
- ③ 発表（15分）
- ③感謝の気持ちを伝えようのメッセージカード「おこづかいマスター」づくりの時間
 - ・ありがとうを伝えよう
 - ・これから〇〇をがんばります



<保護者ワーク>

- ① 何のためにおこづかいを渡しているのか？ その意図は？
 - ② こんな使い方をしてほしい
 - ③ おおこづかいの使い方について、どう評価しているか？
- ・最後に目標などこれからどうするかを考えてもらい、発表してもらおう（10分）
 - ・終了後に子供たちが保護者に対して感謝の気持ちを伝えるために、メッセージカード「おこづかいマスター」を手渡した。
 - ・まとめ（5分）
 - ・記念撮影（10分）

○出演者：1期生8名

企画：大矢萌々華（阪南大学）

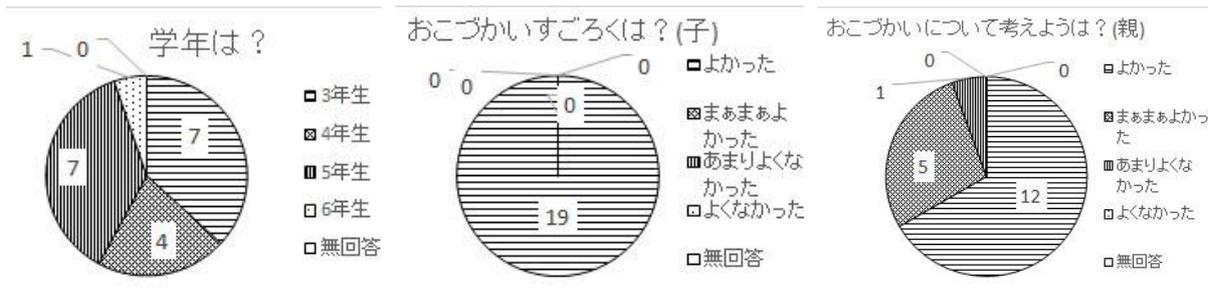
全体ファシリテーター：大矢萌々華（阪南大学）

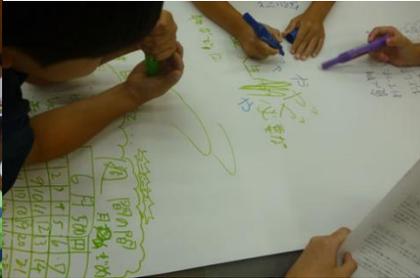
チームファシリテーター：

浦谷拓弥、岡橋拓摩、リーダー会以外の学生1名（大和大学）、戸嶋陽向、リーダー会以外の学生3名（阪南大学）

○参加者：子ども20人、保護者19人 合計39人

■参加者アンケート 【小学生】19人 【保護者】18人





(3) 大阪府消費者教育リーダー養成講座でのティーチング・アシスタント

<ボランティア活動の内容>

目的	大阪府消費者教育リーダー養成講座での TA 活動。
時期	9月14日(土)、15日(日)
TA としての役割	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー会活動の事例紹介 ・リーダー会で行いたい消費者教育活動について具体的に考えるワークショップの実施 (ファシリテータ) ・企業×学生交流会企画づくりのワークショップで企画を考える際の支援 (TA)
TA 参加学生	4名 (1期生2名、2期生1名、3期生1名)

(4) 大和大学学園祭

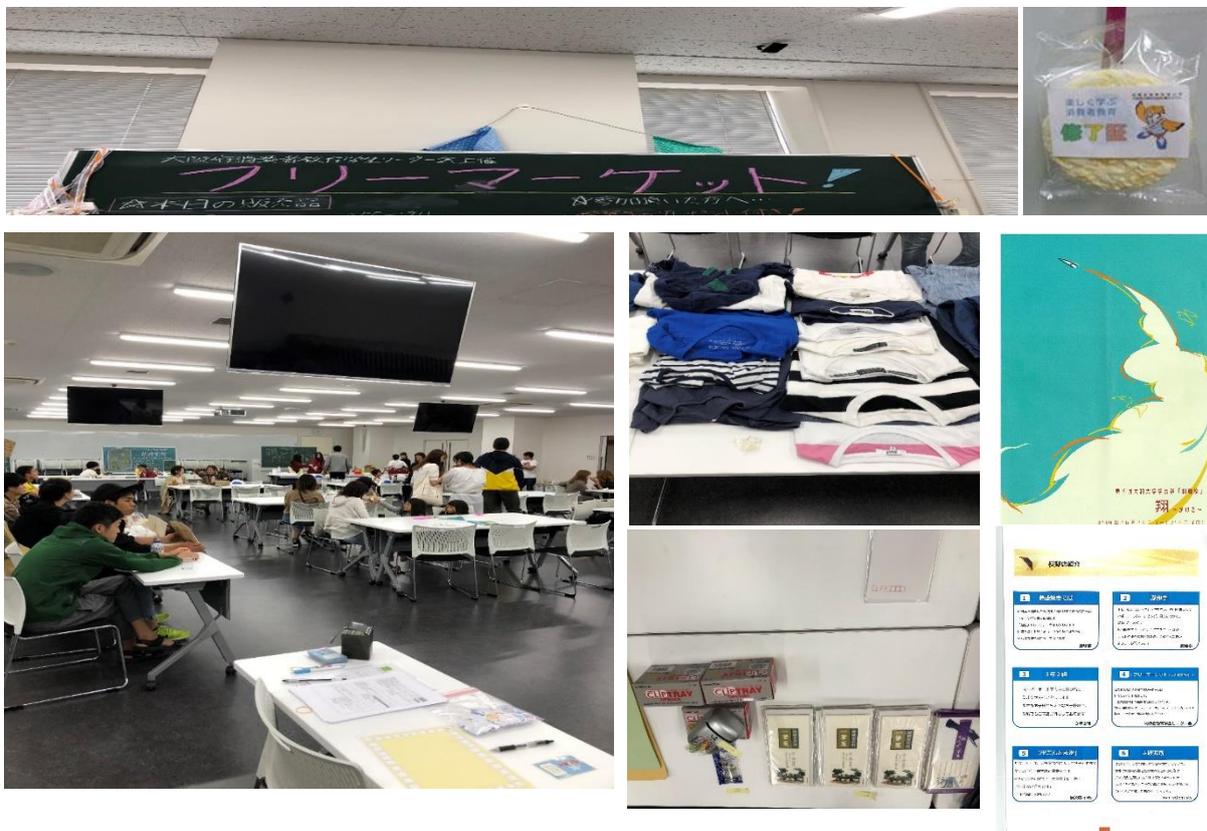
4月に開催したリーダー会議の中で、今年度取り組みたいボランティア活動について検討した際に出てきた提案が、大学の学園祭で何らかの消費者教育に関する啓発プログラムができないかということであった。その中で、リーダー会メンバーが在籍している大和大学と阪南大学で開催できるかどうかについて、大学内の学園祭実行委員会等に依頼した結果、大和大学の学園祭で実施することができることになった。学園祭での実施については、昨年度まで追手門学院大学で消費者教育をテーマとした演劇を行っていた実績がある。今年度は、以下の内容で実施した。

<ボランティア活動の内容>

テーマ 「ブース名」	フリーマーケット～ひととモノをつなぐ～
目的	参加者に消費者教育の重要性について知って頂く 参加者により良い消費行動について考えて頂くきっかけとする
開催日	令和元年 10 月 13 日(日) ※当初開催予定だった 12 日(土)は台風のため中止。13 日のみの開催となった。
開催時間	9:00～18:00
担当メンバー (大阪府消費者教育学生リーダー会)	◎岡橋拓摩(大和大学 3 期)、浦谷拓弥(大和大学 2 期)、戸嶋陽向(阪南大学 1 期) (◎は主担当)
タイムスケジュール	9:00～10:00 ブース準備 10:00～17:00 ブース運営 17:00～18:00 ブース片付け
フリーマーケットの商品の収集	・リーダー会メンバー、友人、学内、W.WORKS から提供品を募った。
販売	・模擬店スペースで、フリーマーケットの運営を行った。 ・商品に値段をつけ販売。値段は 300 円以下とした。 ・商品を提供した人に販売価格の 5 割を還元し、残りを利益とした。 ・提供者によっては全額寄付もあった。 ・商品を買って頂いた方を対象に、お菓子付きのメダルを贈呈した。
売上金額と利益	・全体の売上金額は 1 6 2 0 円、利益は 1 0 8 0 円であった。 ・フリーマーケットでの利益は、令和 2 年度のリーダー会の活動における物品購入費用に充てる
まとめ	学内におけるブース出店は初めての試みであったが、成果を挙げることができた。そして、変化する商品のニーズについて理解し、商品を適切に使用することが、消費者教育を担う立場として重要になるという「学び」を得ることができた。

<当日フリーマーケット販売した商品>

販売品	値段(円)	売れた数
布団のシーツ	300	2
タオル	20、30	20円：1 30円：1
ズボン	200	1
マグカップ×2	90	2
一筆箋	10	18
漫画	30	5
オープナー（クリップ付き）	30	4
ボールペン	10	1
スキンチェッカー	100	1
折り紙	30	1
服	200	0
A4紙ファイル	10	0
LANケーブル	50	0
USBハブ	50	0
ホッチキス	30	0
A4ノート	20	0



(5) 大阪府消費者フェアでの大阪府消費者教育学生リーダー会活動の発表及びボランティア活動

大阪府が毎年実施している府民に向けた消費者イベントで、消費者教育関係の消費者団体が多数参加する。昨年度に引き続き今年度も、リーダー会への参加依頼があった。依頼内容は、①舞台での「リーダー会活動の紹介」、②ブース出展であった。今年度はブース出展のみとし、消費者関連専門家会議 ACAP とのコラボによるブース出展とした。

ブース企画は、昨年度実施した、巨大ジェンガを使って遊びながら、消費者クイズ「あなたならどうする？」に回答してもらおうプログラムを実施した。これは、昨年度、消費者フェアで実施するために作成したプログラムで、今年度は、9月実施のリーダー養成講座の中で、4期生が考えた設問&回答を加え、内容をブラッシュアップしたものである。「親子イベント」で実施した「おこづかいについて考えよう！」と同様に、このジェンガ遊び「あなたならどうする？」もリーダー会のオリジナルプログラムとしてモデル化することを目指した。

<消費者フェアでの実施概要>

- 開催時期：11月2日（土）11：00～15：00（4時間）
- 対象：府民
- 会場：大阪府咲州庁舎1階フェスパ
- 内容：①舞台でのコーナー紹介（出展者）、②ブースでのジェンガゲーム（ACAP とのコラボ）
- 参加者：6名；1期生2名、2期生2名、3期生2名

<ブースでのジェンガゲームによる消費者教育啓発の内容>

ブース企画では、ACAP とのコラボプログラムとして、巨大ジェンガを使った消費者教育啓発の「選択クイズ～あなたならどうする？」を行った。消費者教育啓発の「選択クイズ」により自分の消費の傾向を知ってもらい、今後の消費活動に生かしてもらおう内容とした。対象は、子ども、若者、高齢者、共通の4種類のクイズを作成し、それぞれが直面するであろうテーマで問題を作成した。消費の傾向をみてもらうために、各年代で自分の傾向をシールにして、3つの傾向を「しっかりタイプ」「おっちょこちょいマイペースタイプ」「ちゃっかりエコもうひと息！タイプ」に自分が該当するタイプに貼ってもらった。結果を公開することで、イベントに参加している人たちにも一緒に考えてもらう場とした。

ACAP からは、ACAP 会員企業からお菓子やグッズの提供を受け、参加者でクイズに答えてくれた人全員に配布した。また、子どもたちには、お菓子でつくった「お菓子修了証～今日からあなたは消費者市民社会の一員です」も合わせて渡し喜んでもらうことができた。

◆遊び方

1. ジェンガを5×5で交互に並べる

そのときあなたは どうする!?	
Q1	欲しい漫画があった～でも、お小遣いがないよ～さあ！あなたはどうする。
A.1	他の漫画を売って！ 青
A.2	今月は使っちゃたし来月買おう。 赤
A.3	お小遣いは貯金箱に貯めてるから本当に欲しい漫画は帰るよ。 黄

2. 参加者（子ども、おとな、高齢者、若者）はジェンガを1つ引いて、上に並べていく
3. 引いたジェンガの番号で、Q&Aに回答してもらう
4. 回答に応じて、赤、青、黄のシールをわたす
5. シールを渡して、自分のタイプの色の箇所にも貼ってもらう

「しっかりタイプ」「おっちょこちょいマイペースタイプ」「ちゃっかりエコもうひと息！タイプ」

6. 大人にはACAPからの景品を渡し、子どもには、さらにお菓子メダルをわたす

★シールを貼る模造紙を衝立に貼り、参加者以外にも結果を見せることで啓発する。



(6) 和歌山大学「消費者市民と社会」でのティーチング・アシスタント

<ボランティア活動の内容>

目的	和歌山大学提供科目「消費者市民と社会」での TA 活動。
時期	12月14日(土)、21日(土)、22日(日)
TA としての役割	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー会活動の事例紹介 ・企業×学生交流会企画づくりのワークショップで企画を考える際の支援 (TA) 
TA 参加学生	2名(2期生1名、3期生1名)

(7) 泉大津市「クリスマス親子イベント」

本事業と連携した講座として和歌山大学で開講された「消費者市民と社会」では、カリキュラムの中に、泉大津市と連携した「クリスマス親子イベント」を学生が企画、運営するボランティア活動がすでに組み込まれた内容になっており、以下の通り活動を行った。

<ボランティア活動の内容>

目的	泉大津市の産業である毛布づくりから生まれる廃材を利用して、クリスマス関連の遊びや飾り等を作成し、親子で楽しめるクリスマスイベントを実施する。親子イベントに参加して、リサイクルでできたおもちゃや飾りや遊びを通して、廃材の利用や「もったいない」の気持ちを具体的に体験してもらう。
時期	12月22日(日)10:00~13:00
出店内容	<ul style="list-style-type: none"> ・糸巻の廃材を利用したサンタクロースづくり ・糸巻を使ったサンタクロースをピンに見立ててボウリング遊び ・糸巻廃材や端切れを利用したクリスマスツリー
参加学生	60名(講座「消費者市民と社会」の受講生)

第7節 企業×学生交流会の開催

1. 大阪府消費者教育学生リーダー会主催による交流会の開催

大学生間ネットワークを形成促進するために、昨年度に引き続き、企業×学生交流会を開催した。交流会を開催するにあたっては、学生の主体的な活動を引き出し、リーダーの自覚をもって交流会を実施するために、リーダー会が交流会の企画・準備・運営を行った。企画・準備・運営にあたっては、基本的に2期生を中心に行い、1・2・3期生は4期生の支援をすることで、交流会を4期生の育成の機会とした。そのため、事前打合せには、企画を担当する4期生だけでなく、できる限り1・2・3期生が同席して会場下見を兼ねて最後の打合せを行った。

一方、持続可能な社会を作る上で鍵を握るのは、消費者であり、企業である。近年企業では消費者や社会、地球環境に配慮した活動を軸に展開する企業が増えている。そこで、交流会のもう1つの目的として、消費者教育のステークホルダーの一方の大きな主体である「企業」とともに、大学生と企業との協働により「考えて行動する自立した消費者育成」を目指した。

交流会では、昨年度に引き続き、企業と学生が共に考えたことを1つでも具体的な成果として形にする内容を盛り込むこととした。具体的には、自分たちができる消費行動の先に新しい生活スタイルが生まれることを知ってもらうことを目指した。

本交流会では、企業と消費者それぞれの立場で、「地球や社会の未来のために一人ひとりができることを一緒に考える場」づくりをめざしている。生産者と消費者とがお互いを知ること、それぞれ自分にできることについて考えを広げていくことができる仕組みになっている。生産者と消費者が共に未来を作る両輪であることを再認識し、自分たちができることを一緒に考えていく、新しい社会の在り方を提示した大いなるチャレンジである。リーダー会が活動の柱の1としているSDGsの12番目「作る責任 つかう責任」を具体化したプログラムといえる。

交流会の概要は、以下の通りである。

名称	企業×学生交流会
目的	①学生のネットワークを広げる ・消費者教育に係る大学生間ネットワークの形成促進を図る ・消費者教育の担い手としてのリーダーの意識を高める ・1期生が2期生を育成する場とし、2期生の成長を促す ・リーダー会の団結意識や帰属意識を高める ・リーダー会の存在をアピールする ・次の代への継承を図る ・学生の主体的な活動であることの認識を強める

	<p>②企業×学生との交流による考えて行動する自立した消費者育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業の消費者や社会、地球環境に配慮した活動を知る ・企業と交流する中で消費者として自分が何をすべきかを考える ・考えるだけにととまらず、何か成果を形にすることを目指す 例えば、企業と協働で実施するボランティア活動を考える、企業と連携したボランティア活動の改善点を考えプログラムをブラッシュアップするなど。 ・消費者と企業がともに消費者教育について考える場とする
主催等	<p>○主催：大阪府消費者教育学生リーダー会</p> <p>○Special Thanks：公益社団法人消費者関連専門家会議（ACAP）、公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会（NACS）、「ハルカス大学」プロジェクト</p>
参加呼びかけ手法	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー会専用ホームページ及びLINE ネットワークを通じて他の学生に参加呼びかけ ・これまで一緒に活動した企業や団体等への呼びかけ ・和歌山大学の学生に学内配信 ・関西 SDGs プラットフォームのホームページやメールマガジンで開催を配信
内容	<p>リーダー会の学生がプログラムを検討。◎は必須。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎消費者市民社会を理解してもらう ○日々の行動や選択ジレンマを立ち止まって考える ◎リーダー会の活動を紹介する。 ◎消費者を大事にする企業活動の紹介 ◎人や社会や地球にやさしい消費行動を考えるワークショップ ○大学生として何ができるかを考える ◎学生の交流を図る ◎消費者教育学生ネットワークへの登録の誘い ◎企業との交流を図る <p>※協力企業については、消費者関連専門家会議（ACAP）会員企業に呼びかけ協力を得る</p>
開催回数	3回
開催時期	<p>第1回交流会：11月23日（土祝）13：30～16：30</p> <p>第2回交流会：12月15日（日）13：30～16：30</p> <p>第3回交流会：1月26日（日）13：30～16：30</p>
会場	<p>第1回：岸和田浪切ホール1階多目的ホール</p> <p>第2回、第3回：あべのハルカス23階ハルカス大学セミナールーム</p>

<交流会のテーマ>

交流会では、消費の中で衣食住を大テーマとし、各回それぞれにメインテーマを設定し、プログラム作りを行った。

交流会	メインテーマ
第1回	衣
第2回	食
第3回	住

<交流会企画の考え方>

現代社会は、持続可能な社会への変革が求められている。そのため、企業は人や社会や地球に配慮した企業活動をめざして、様々な工夫が行われている。一方で、持続可能な社会の実現のためには、消費者の協力も不可欠である。そのために、消費者は企業の配慮を学び、選択する際の視野を広げる必要がある。

そこで、本交流会では、次世代を担う学生に、消費者を大事にし人や社会や地球に配慮した企業活動を紹介する（第1部）とともに、企業と学生が実際に交流するワークショップ（第2部）では、企業の方と学生を混ぜたグループをつくり、企業の方と学生が積極的にコミュニケーションをとるワークを行い、各回のテーマについて「学生一人ひとりが自分ならどうする」を考える場とする。

本交流会を通して、学生が企業の配慮を学び、消費者として選択する際の視野を広げる必要性について実感したことを、自分自身の日々の生活での選択に活かすことを通じて、一人ひとりの小さな消費行動が大きな社会問題の課題解決につながっていることを実感できることをめざす。

<交流会プログラムの詳細を検討するにあたっての注意点>

- 各回のコンセプトを明確にする
- 登壇いただく企業のテーマを決める
企業に対しては、なぜそのテーマにしたか理由を具体的に伝える
- 企業テーマを選ぶ際、できるだけ具体的に考える
- 第一部のテーマを基にして、第二部のワークショップのテーマを考える
- ワークショップでは、なぜそのテーマにしたか理由を具体的に伝える
- ワークショップでの発話（議論するテーマ）を2、3用意する
- ワークショップでは、1テーブル4名～6名、企業1名+学生を目安とする

(1) 第1回交流会 会場：岸和田浪切ホール1階多目的ホール

日時	令和元年11月23日(土) 13:30~16:30
テーマ	衣
担当班	金野茜(和歌山大学) 先輩期生サポート：浦谷拓弥(大和大学、2期)
リーダー会 ボランティア活動紹介	○わたしにとっての消費者教育 ○「大阪府立中央図書館“キッズライフアカデミー”」の活動について ○大和大学学園祭「フリーマーケット出店」
消費者を大事にする 企業活動紹介	○「足と靴の話---靴を安全・快適にお履き頂く為のダイアナの取組--」 ダイアナ株式会社 新田康人様 (公益社団法人消費者関連専門家会議(ACAP) 会員企業)
ワークショップ「人や 社会や地球にやさしい 消費行動を考える」	「選択するということ~自分のための靴選び~」 ○これから自分のために靴を選択するにはどうしたらいいかを考え、意見を深める。
 	

<参加者数>

種類	参加者数	内訳
学生	12名	リーダー会4、和歌山大学講座受講生8
企業	14名	ダイアナ株式会社、イカリ消毒株式会社、タビオ株式会社、小林製薬株式会社、ハウス食品株式会社、大阪いずみ市民生活協同組合、株式会社ルシアン、NACS4、国民生活センター ○リーダー会卒業生1、その友人1
大学	3名	和歌山大学2、他1
その他	3名	大阪府消費生活センター1、事務局2
合計	32名	

<第1回交流会の様子>

1、開会式

司会 浦谷拓弥(大和大学)

まず初めに、司会者から注意事項や資料の確認等を行った。

本取組を代表して産学協働人材育成機構 AICE 企画運営委員長である岡崎 裕(和歌山大学)先生の挨拶をもって、令和元年度リーダー会主催第1回企業×学生交流会を開会した。



2. 私にとっての消費者教育についての発表

発表者：竹田尚起（阪南大学）

リーダー会に入って、消費者教育について学び、様々な活動を経て、自らの消費行動に対する考え方や捉え方にどのような変化があったのか。また、リーダー会で学んだ知識をどのような形で日々の自分の生活に活かしているのか等について発表した。



3. リーダー会活動報告紹介

① 「大阪府立中央図書館“キッズライフアカデミー”」の活動について

発表者：浦谷拓弥（大和大学）

大阪府立中央図書館にて小学5,6年生を対象に、2日間計6限というスケジュールで夏休みの自由研究にも使える体験学習を行う、キッズライフアカデミーというイベントに参加した。リーダー会は初日の2限目を担当し、小学生に対して金銭教育を行う運びとなり、「おこづかいの使い方を学ぼう」というテーマのもと、おこづかいの大切さや、両親が一生懸命働いて稼いでくれたお金

で買ってくれたモノや習い事もおこづかいだということを自覚してもらい、それを今後、どのように使っていくかを考えるきっかけとする場とした。

また、「おこづかいマスターカード」というものをリーダー会で制作し、参加してくれた小学生に、その保護者への感謝の気持ちやこれからの抱負をそこに書いてもらい、おこづかいの大切さだけでなく、家庭内では普段なかなか言わないであろう両親へ感謝を伝える場ともしたことを発表した。



② 大和大学学園祭「フリーマーケット出店」について
発表者：岡橋拓摩（大和大学）

リーダー会初の試みとして、大学の文化祭に出店をした。内容としては、「～人と物をつなぐ～」というコンセプトで、循環型社会の実現を目的にフリーマーケットを実施した。日程は2日間予定されていたのだが、初日は台風の影響により中止となり、1日のみの開催となった。フリーマーケットで出品した商品はリーダー会のメンバーの持ち寄り品で、服や毛布、文房具類等々を店頭で並べた。幅広い年代の方たちからもたくさん購入いただき、売上金が目標額を超えたこと等について発表した。



4. 企業活動紹介：ダイアナ株式会社 新田 康人 様

テーマ：『足と靴の話---靴を安全・快適にお履き頂く為のダイアナの取組---』

近年、靴はファッションの一部で、オシャレのためだけに靴を選ぶ消費者がほとんどである。講演では、本来靴とは足の安全、ひいては健康を保つものであるということをご教授頂き、ダイアナ(株)では「足のサイズに合わせて靴を選ぶ」という従来の消費に対する考え方から、「靴を足のサイズに合わせる」ことを軸にした企業活動を紹介していただいた。また、それに伴い、靴を消耗品と捉え低価格の商品を買うのか、それとも足の健康といった価格以外の要素も踏まえた上で、少し高い製品だとしても購入するのかといった消費をする際に葛藤することも重要だと伝える内容であった。



5. ワークショップ

今回のワークショップのテーマは、成熟市場である現代で、靴をファッションとして捉えて購買をするのか、安全快適に過ごすために靴を買うのか、他にも消費には選択の葛藤が必ず点在する。そのため、このワークショップの場を普段の自分の消費に対する考え方を考え直すきっかけとし、それを今後の消費活動に活かしてもらうことを目的としている。

そこで、まずワークショップの第1段階として『普段、靴を買うときは何を意識しているか』についてディスカッションを行った。

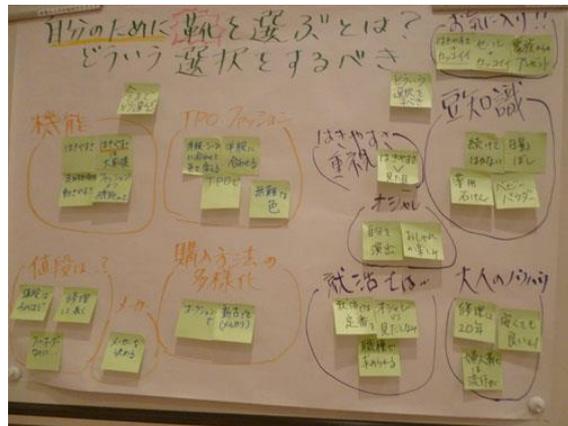
次いで、第2段階として、ダイアナ(株)の企業活動を聞いた上で、『自分のために靴を選択するとはどういうことか』についてディスカッションしてもらった。今後、足の安全や健康を意識して消費するということが正解ということではなく、それでもファッションにこだわりたいという考え方を持ったままの方もいると思う。これから消費を行う際、葛藤して自分に



合った消費は何かを考えてもらい、最後に、5~6人のグループごとに発表していただいた。

6. 閉会&アンケート

交流会の閉会宣言をした後、参加者にアンケートを回答して頂き、解散とした。



(2) 第2回交流会 会場：あべのハルカス 23階ハルカス大学セミナールーム

日時	令和元年12月15日(日) 13:30~16:30
テーマ	食
担当班	新田航生(和歌山) 先輩期生サポート：岡橋拓摩(大和大学、3期)
リーダー会 ボランティア活動紹介	○私にとっての消費者教育 ○「大阪府金融広報委員会“夏休み！親子で楽しむお金探検隊”」の活動について ○大阪府消費者フェアについて
消費者を大事にする 企業活動紹介	○『トリドールの考える価値創造』 株式会社トリドールホールディングス 大下浩平様(公益社団法人消費者関連専門家会議(ACAP) 会員企業)
ワークショップ「人や社会や地球にやさしい消費行動を考える」	『料理中に生じるゆで汁や廃食油に名前をつけよう！』 食べ物を廃棄することに関しては、「食品ロス」という言葉が用いられ、多くの人々に周知されるようになってきたが、料理中に生じるゆで汁や廃食油も同様に廃棄するときには配慮されるべきものであると考えられる。これらのものにも呼びやすい名前を付けて周知されやすいものにしたい。

令和元年大阪府消費者教育センター 開設直後、18学部10校に広がる消費者教育推進事業、
大学連携、177校の協賛校に展開した大学が元となる消費者教育推進の発展
→大学教育現場の課題を踏まえつつ、より消費者教育の発展を促すため

大阪府消費者教育学生リーダー会主催
企業×学生交流会
人や社会や地球にやさしい生き方を共に考える

2019年度
第2回 12月15日(日) 13:30-16:30
第1回 11月23日(日) 第3回 1月26日(日) 両日 13:30-16:30
会場：あべのハルカス 23階ハルカス大学セミナールーム

13:30~15:00
「学生リーダー会活動紹介」
○大阪府消費者フェア2019の活動「そととどろするフェア」
○大阪府消費者フェア2019の活動「そととどろするフェア」
おこづかについて考えよう！

15:00~16:30
ワークショップ「人や社会や地球にやさしい消費行動を考える」
ワークショップ「料理中に生じるゆで汁や廃食油に名前をつけよう！」
企業×学生が共に消費をキーワードに見直し、交流を図ります

第2回テーマ
食

定員50名(先着順) 応募締切 令和元年12月12日(木)
このイベントをメールに通知し、申し込みフォームまでお申し込みください。(TEL:1026-767)
お問い合わせ先はコチラ
会場：あべのハルカス 23階(和歌山)

主催 和歌山大学 経済学系 経済情報センター事務局
〒930-8501 和歌山県和歌山市大和町1-1-1 和歌山大学経済情報センター1026
TEL:073-246-7271 FAX:073-246-7081 E-MAIL: cominfo@wgu.ac.jp
http://www.wgu.ac.jp/1026/ (TEL:073-246-7271)

大阪府消費者教育学生リーダー会主催
第2回 企業×学生交流会
2019年12月15日(日) 13:30-16:30
あべのハルカス23階 ハルカス大学セミナールーム

第2回テーマ
食

次第

時間	プログラム	司会/講師
13:30(5)	開会	司会:岡橋拓摩(和歌山大学) MC:藤原由美(和歌山大学) 来賓:高木博和(和歌山大学)
第1部 活動紹介		
13:35(10)	私にとっての消費者教育	消費者教育学生リーダー会 岡橋拓摩(和歌山大学)
13:45(15)	消費者教育学生リーダー会活動紹介 ①「大阪府金融広報委員会“夏休み！親子で楽しむお金探検隊”」の活動について	消費者教育学生リーダー会 高木博和(和歌山大学)
14:00(10)	消費者を大事にする企業活動紹介 『トリドールの考える価値創造』	株式会社トリドールホールディングス 大下浩平 氏 公益社団法人消費者関連専門家会議(ACAP)の 会員企業
15:00(15)	休憩	
第2部 ワークショップ・交流会		
15:15(10)	ワークショップ「人や社会や地球にやさしい消費行動を考える」 ○料理中に生じるゆで汁や廃食油に名前をつけよう！」	グループディスカッション企業・学生
16:15(10)	まとめ	消費者教育学生リーダー会 新田航生
16:25(5)	閉会式 アンケート記入	消費者教育学生リーダー会 新田航生

<参加者数>

種類	参加者数	備考
学生	27名	リーダー会3、和歌山大学講座受講生24
企業	15名	斎木総合研究所、イカリ消毒株式会社、ハウス食品株式会社、雪印メグミルク株式会社、小林製薬株式会社、大阪ガス株式会社、タビオ株式会社、トリドールホールディングス株式会社2、パナソニック株式会社2、NACS4
大学	5名	和歌山大学3、帝塚山学院大学1、大学コンソーシアム大阪1
その他	2名	事務局2
合計	49名	

<第2回交流会の様子>

1. 開会式

司会 岡橋拓摩（大和大学）

初めに、司会より資料の確認、注意事項の説明を行った。

開会の挨拶

AICE 戦略会議委員 木村亮介 様

続いて、AICE 戦略会議委員の木村亮介様（和歌山大学）より開会の挨拶を行って頂いた。



2. 私にとっての消費者教育

発表 岡橋拓摩（大和大学）

リーダー会への入会前と入会后における意識の変化について、またリーダー会での活動で得た経験について振り返った。そして参加者に、「一人ひとりとの出会いを大切にしながら、消費者教育の重要性を広めていくこと」が必要であると主張した。



3. 消費者教育学生リーダー会活動紹介

①「大阪府金融広報委員会主催 夏休み！

親子で楽しむお金探検隊」での活動

発表 浦谷拓弥 (大和大学)

2019年8月8日に日本銀行大阪支店で行われた大阪府金融広報委員会主催「夏休み！親子で楽しむお金探検隊」での活動について報告を行った。当日は、「おこづかいについて考えよう！」と題して、

子どもチームと大人チームに分かれてグループワークを行った。その場でリーダー会のメンバーがファシリテーターとして参加し、子どもにはおこづかいを大切に使うことの意味を、大人の方には親としておこづかいを渡す際の気持ちを共有できた活動であった。



③ 大阪府消費者フェアでの活動

発表 和田佳寿也 (大阪成蹊大学)

2019年11月2日に咲洲庁舎で行われた、大阪府消費者フェアでの活動について報告を行った。消費者フェアの当日は、『あなたはそのとき、どうする？ゲーム！』と題して、番号の付いたジェンガを引いて、その番号に対応する消費者クイズを出すというブースを出店した。回答に応じて、「しっかりエコタイプ」「ちゃっかりエコもう一息タイプ」「おっちょこちょいマイペースタイプ」の欄にシールを貼って頂き、参加賞としてメダルと景品の贈呈を行った。参加者並びブース運営に携わったリーダー会のメンバーが楽しみながら参加することができ、参加者の方により良い消費行動の重要性について知って頂くことができた活動であった。



4. 消費者を大事にする企業活動紹介

『トリドールの考える価値創造』

株式会社トリドールホールディングス

CSR推進室長 大下浩平 様

株式会社トリドールホールディングスは、外食産業の中核を担い、「丸亀製麺」や「豚屋とん一」をはじめ、国内外で約1705店舗を展開している企業である。今回は、『トリドールの考える価値創造』と題し、トリドール株式会社が行う社会貢献活動について、また価値創造における考えについて講演を頂いた。近年、国内では地球温暖化や貧困、食品ロス等の問題に直面している。その中で、国内では子ども食堂やキッチンカーの運営、店内における生ごみ処理機の活用や省エネゆで釜の開発を通し、また国外では学校の創立や「食」のビジ



ネススクールの開講を通し社会貢献事業に携わっている、というお話があった。また、価値創造の実現に向けて、自らの仕事を生かすこと・すぐにやること・成果を実感できることを重視し、トリドールに関わる全ての人に「感謝」の気持ちで取り組んでいる、というお話もあった。

5. ワークショップ・交流会

ファシリテータ 岡橋拓摩 (大和大学)

グループディスカッション 企業×学生

今回のワークショップでは、『食品ロスと調理で発生する廃棄するものについて考え、料理中に生じるゆで汁や廃食油に名前をつける』というテーマについて、企業と学生がグループディスカッションを通して意見交換を行い、まとめた内容を発表した。



ワークショップでは企業の方+学生のグループを6つ作り、グループディスカッションを行った。

6. まとめ

現在、国内で進行する食品ロスや地球温暖化、さらには少子高齢化や核家族化を初めとする社会問題に対して、「消費者」の立場から正面に向き合うこと、また、周りの人と情報共有しながら、解決策を模索していくことが重要であるとまとめた。



(3) 第3回交流会 会場：あべのハルカス 23階ハルカス大学セミナールーム

日時	令和2年1月26日(日) 13:30~16:30
テーマ	住
担当班	中嶋未歩、小島夢輝、藤井優希、小谷拓未、建林萌恵(和歌山大学) 1・2・3期生サポート：浦谷拓弥(大和大学、2期)、岡橋拓摩(大和大学、3期)
リーダー会 ボランティア活動紹介	○私にとっての消費者教育 ○泉大津市「親子イベント」について ○和歌山大学「消費者市民と社会」での授業支援(TA)について
消費者を大事にする 企業活動紹介	○『パナソニックの消費者志向経営 ～これからのスマートライフ(創エネ・省エネ・蓄エネ)』 パナソニック株式会社 田中義雄様 (公益社団法人消費者関連専門家会議(ACAP) 会員企業)
ワークショップ「人や社会や地球にやさしい消費行動を考える」	『エネルギーのムダ使い～罪悪感を感じない解決策はこれだ!』 私たちは、生活する中で知らず知らずのうちにエネルギーを無駄にしている。例えば、人がいない部屋の暖房をつけっぱなしにしたり、お湯が出るまでの冷たい水を捨てたりしている。今回のワークショップでは、自覚のないエネルギーの無駄遣いに気づき、エネルギーを無駄にしないライフスタイルを考えたい。自分の生活を見直し、エネルギーとの付き合い方を意識するきっかけになればと思う。

時間	プログラム	司会
13:30(5)	開会	事務局員 岡橋拓摩(和歌山大学)
第1部 活動紹介		
2 13:35(20)	私にとっての消費者教育	消費者教育学生リーダー 竹内尚也(和歌山大学)
3 13:45(15)	消費者教育学生リーダー会活動紹介 (『大和府中北原産地』「モズライフアカデミー」の活動について)	消費者教育学生リーダー会 清谷拓弥(大和大学)
4 14:00(20)	『私と私の精一親を安全・快適にお届け』 「衣」のダイアログの取組	消費者教育学生リーダー会 岡橋拓摩(和歌山大学)
15:00(15)	休憩	
第2部 ワークショップ・交流会		
5 15:15(40)	ワークショップ「人や社会や地球にやさしい消費行動を考える」 自分のために靴を捨てるということとは?	グループディスカッション 全10学生
6 15:50(20)	まとめ	消費者教育学生リーダー会 金野高
7 16:25(5)	閉会式 アンケート記入	消費者教育学生リーダー会 金野高

<参加者数>

種類	参加者数	備考
学生	26名	○リーダー会学生8名（1期生1名、3期生7名） ○一般学生9（大和大学2、立命館大学1、和歌山大学6）
企業	15名	パナソニック株式会社2、住友生命保険相互会社、小林製薬株式会社、大阪ガス株式会社、ハウス食品株式会社、イカリ消毒株式会社、タビオ株式会社、ミズノ株式会社、雪印メグミルク株式会社、ACAP 理事1、NACS4
大学	4名	和歌山大学2、大学コンソーシアム大阪2
その他	6名	大阪府消費生活センター4、事務局2
合計	51名	

<第3回交流会の様子>

1. 開会式

司会：小島 夢輝(和歌山大学)



開会の挨拶：鯨坂先生(和歌山大学)

始めに司会者から注意事項・配布資料の確認があり、その後開会宣言を行った。



2. 「私たちにとっての消費者教育」小谷拓未(和歌山大学)

SDGs とは何かを説明すると共に、自分の参加したイベント(12/22の日曜日に開催された親子イベント「町の材料でおもちゃを作ろう」)を踏まえて考えた消費者教育について語った。



3. 消費者教育学生リーダー会活動紹介

①泉大津市「親子イベント」について 中島未歩(和歌山大学)



イベントの概要（開催日時など）を説明した後、イベントを開催した目的、SDGs とは何かなどについて語った。今回のイベントの目的が、「講座を受講している大学生がボランティア 活動と通じて消費者教育について学ぶ事、イベントを通じて SDGs の 12 番目の 項目である「つくる責任、つかう責任」を次世代を担う子どもたちに伝える」ことであったことも発表された。

④和歌山大学「消費者市民と社会」での授業支援(TA)について 岡崎拓磨
(大和大学、リーダー会3期)

和歌山大学の授業として実施された「消費者市民と社会」において、リーダー会のメンバーがティーチング・アシスタント (TA) として授業の中で具体的にどのような支援を行ったかについて発表を行った。



4. 消費者を大事にする企業活動紹介：パナソニック株式会社 田中義雄 様

テーマ:『パナソニックの消費者志向経営~これからのスマートライフ~』

近年世界中で環境問題やエネルギー問題について問題視されるようになり、対応を迫られるようになった。これらの問題を解決していくためにどのような活動を行っているのかをパナソニックの田中 義雄様にお話しいただいた。今、電気は私たちの生活に無くてはならないものであり、今の状態でいきなり使用料を減らせというのは難しい。そこでパナソニックでは、より少ないエネルギーで動く同じ機能ないしはそれ以上の機能を持つ電化製品を開発することで、環境問題に取り組もうとしている事がわかった。また、電化製品の稼働時間によってはつけっぱなしの方が効率が良いなど、その日からでも個人で実践出来る環境問題への解決策も学ぶことが出来た。



5. ワークショップ『人や社会や地球にやさしい消費行動を考える』

ファシリテーター 藤井 優希(和歌山大学)

テーマ: エネルギーの無駄遣い~罪悪感を感じない解決策はこれだ!!~

今回のテーマでは日頃意識しないうちに無駄にしているエネルギーをどのように減らすかについて考えた。

まずどのような事をするか前で説明した後、7つの班(学生約4人、企業の方2人の計約6人程度の班)に分かれてグループワークを行った。

グループワークで考えた内容は、①無駄なエネルギー使用について考えよう②無駄なエネルギー使用に対する解決策を考えようの2点である。

グループワーク後の発表では、以下のような意見が出た。

1班 資源の無駄

ペットボトルではなく紙の容器を使うことで資源の無駄をなくせるのでは
水の無駄

節水を心掛けるシールなどを目のつくところに貼っておくことで、節水を「意識」することが出来、水の流しっぱなしを防止できるのでは

2班 電気の無駄

「意識」をすることでこまめに電気を消したりエアコンを消したり出来るのでは

3班 衣類の無駄



穴が開いても捨てるのではなく、手を加えてバザーやリサイクルに出せるのでは
電気の無駄

一人で使うのではなく多くの人数であればよいのでは

4班 紙の大量消費

ネットでやり取りを行うなどペーパーレス化をすることで紙の使用を減らすことが出来るのではないか

5班 電気の使用

防犯用などで必要な電気もあると考え、電気を消すではなく使い分けが必要なのではないか

6班 電気の無駄

冷暖房やホットカーペットはタイマーを設定しておくことで無駄な使用を防げるのでは

7班 無駄の数値化

電気などの無駄な使用を数値化(料金化)することによってそのような使用をなくせるのではないか。

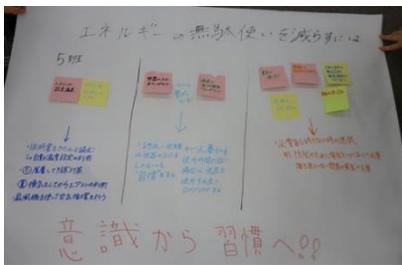
最後に、各班の発表の後、ファシリテーターによる、ワークショップのまとめが行われた。「意識」が大切であるとの意見が多かった。

7. 閉会式

以上の交流会の内容がすべて終了した後、大阪府消費生活センターから大阪府消費者教育学生リーダーの認定式が執り行われた。(詳細は、次項「(4)大阪府消費者教育学生リーダー認定式」参照)

今年度を総括して岡崎先生(和歌山大学)の挨拶が行われ、終了となった。





(4) 大阪府消費者教育学生リーダー認定式

令和元年度第3回企業×学生交流会の最後に大阪府消費生活センターによる認定式を執り行った。認定式では、大阪府消費者教育学生リーダーの認定要件を満たした学生に対して、認定証ならびに認定カードが授与された。

令和元年度 認定者数	28名(2大学)
------------	----------



(5) 企業×学生交流会各回のテーマについて

これまで実施してきた交流会での企業講演及びワークショップのテーマは以下の通り。

<平成 28 年度～令和元年度 交流会テーマ>

テーマ	年度回	企業講演	担当企業	ワークショップテーマ
衣	R1 第1回	足と靴の話---靴を安全・快適にお履き頂く為のダイアナの取組--	ダイアナ株式会社	自分のために靴を選択するということとは？！
	H30 第1回	花王の生活者視点活動～衣類用洗剤を中心に～	花王株式会社	循環型社会・内なる消費ってなに？！
	H29 第1回	履き心地、デザイン、長持ち」の裏付けとなる靴下づくりの姿勢	タビオ株式会社	もったいない消耗品をなくすために～どう伝えるかを考えよう！
	H28 第1回	スポーツウェアの素材と機能を知る	ミズノ株式会社	正しい商品知識をもってモノを選ぼう
食	R1 第2回	トリドールの考える価値創造	株式会社トリドールホールディングス	料理中に出てくるゆで汁や廃食油に名前をつけよう！
	H30 第2回	ネスレの存在意義(Purpose)－共通価値の創造(CSV)の実践	ネスレ日本株式会社	「食」は、家庭内や職場内における環境をどのように豊かにすることができるのか？
	H29 第2回	小売現場における食品衛生への取り組み	株式会社消費科学研究所	保存期間について～家の中の食べ物大丈夫？
	H28 第3回	①食品メーカーにおける環境への配慮 ②個人店舗が考える食品ロスの対応は～人に寄り添う～	日本ハム株式会社	食品ロス問題と向き合おう
ハートイン・菜				
住	R1 第3回	パナソニックの消費者志向経営～これからのスマートライフ(創エネ・省エネ・蓄エネ)	パナソニック株式会社	エネルギーのムダ使い～罪恶感を感じない解決策はこれだ！
	H30 第3回	地震対策と地球環境を守るための取り組みについて	大阪ガス株式会社	身近な場所でできるエネルギーの節約方法とその先にある生活スタイルを考える
	H29 第3回	広く社会や地球環境に貢献する存在であり続けることを目指して	TOTO株式会社	水資源に対する消費行動を見つめ直そう！
	H28 第2回	NTTドコモにおけるCSR	株式会社NTTドコモ	再確認！ネットのメリット・デメリット

リーダー会では、リーダー会独自ホームページの中で「学生リーダー会辞典」を作成し、その中で、リーダー会の活動の中から生まれた言葉（造語）を、辞典に収めている。交流会の中から生まれた言葉（造語）は次の通りであった。

今年度の第3回交流会で出た言葉で「意識から習慣へ！！」を取り上げる予定である。

<学生リーダー会辞典>

単語	意味	言葉が生まれた時期
もったいない消耗品	消耗品は消耗品でも丁寧に扱ったり、正しい扱い方をすれば長持ちするので、消耗品として軽く扱うともったいないということ。	平成29年度第1回交流会ワークショップ
衣類ロス	本来はまだ着用できるのに廃棄されたり、収納されたまま着用されずに年数が経ち、劣化してしまっって衣類が無駄に廃棄されること。	平成29年度第1回交流会ワークショップ
適水	節水のために水を使わなすぎても不具合が起こる。節水も大切だが、無駄な水を無くし、その上で適切な量の水を使うことが大切という考え方。	平成29年度第3回交流会ワークショップ
外なる循環・内なる循環	循環型社会を、外なる循環・内なる循環と定義し、「新しい観点から循環型社会を捉え直す」。外なる循環とは、自分のコミュニティ以外の外部にアプローチすること。内なる循環とは、自分の生活環境の中での営みにアプローチすること。	平成30年度第1回ワークショップ

第8節 啓発活動・広報活動

1. 大阪府消費者教育学生リーダー会独自ホームページによる情報発信

リーダー会の活動内容を広く知ってもらうために、リーダー会専用ホームページを開設し、大学生間ネットワークの形成を促進できるよう学生自ら情報発信し、今後仲間となる人材を確保する道を拓くことを行っている。本ホームページでは、できるだけリーダー会の活動が分かりやすく伝わること、顔が見える情報発信の仕方を工夫することを目指している。

工夫していることは以下の点である。

①リーダー会以外の人たちにも自分たちの活動に興味を持ってもらえるよう、ツイッターを利用して、時にはリアルタイムで発信するなど、随時活動の顔が見えるよう紹介する。

① リーダー会に参加するための手続きについて分かりやすく紹介するコーナーを設ける。

② 企業×学生交流会への参加申込をホームページから登録しやすくする。

リーダー会のホームページ

http://www.aice-p.com/consumer/student_leader/

なお、リーダー会のホームページは、リーダー会独自の情報発信となることから、発信するときのルールについては、平成30年度に、以下の通り定めた。

【情報発信するときのルール】

●基本ルール

- ・個人の同意を得ていない写真等は発信しない。
- ・間違った情報を発信しないようにしよう。
- ・メンバーは発信した内容の事後報告をする。

●Twitterのルール

- ・アカウントは利用者を定めて担当者が管理する。
- ・情報を求める利用者の為のツールづくりを行う。
- ・個人を攻撃する目的で利用しない。
- ・運用上支障がなければブロック機能を利用する事はしない。

SDGs (持続可能な開発目標) の12番目
「つくる責任 つかう責任」を
企業と学生が共に考える活動を行っています!

私たち学生リーダー会では、
「一人ひとりの小さな消費行動が大きな社会問題の
課題解決につながっていることを実感し、行動につなげていく」
ことを柱に、社会や地球の未来について責任をもった
消費行動を行うことができるよう、ちょっと立ち止まって考え、
行動する人を増やしたいと考えています。



私たちがつくりました!
消費者教育
啓発パンフレット

ぜひご覧ください! ▶

企業×学生交流会
を開催しています!

詳しくはこちら! ▶

私たちは
こんな活動
をしています!

色々やってます! ▶

私たち、大阪府消費者教育学生リーダー会と共に活動しませんか?

日々、様々なモノ・サービスを消費する中で、商品選択や取引を正しく行えているでしょうか? 間違った情報による商品選択や意図しない契約によってトラブルに巻き込まれないように商品知識を知ることは賢い消費者の第一歩です。また、大量消費社会になった今、持続可能な社会形成が求められており、自らの行動や選択の社会に対する影響を考えていかなければなりません。自らの行動、選択で社会を考える賢い消費者の大学生代表として、企業×学生交流会を企画して消費者教育活動を広めています。皆さんと活動の輪を広げられることを心よりお待ちしております!

- 2020.1.26 イベント
令和元年度第3回企業×学生交流会を開催します!
- 2019.12.15 イベント
令和元年度第2回企業×学生交流会を開催します!
- 2019.11.23 イベント
令和元年度第1回企業×学生交流会を開催しました!
- 2019.10.13 イベント
大和大学学園祭で、フリーマーケットのブース出店を行いました!
- 2019.9.14-15 講座
令和元年度消費者教育リーダー養成講座を開催しました!
- 2019.8.8 イベント
大阪金融広報委員会主催「夏休み!親子で楽しむお金探検隊」に参加し、ワークショップ「おこづかいについて考えよう!」を行いました。
- 2019.7.30 イベント
大阪府立中央図書館主催「キッズライフアカデミー」に参加し、ワークショップ「金銭教育 お小遣いの使い道を学ぼう」を行いました。
- 2019.07 イベント
有限会社ダブル・ワークス及び産学協働人材育成機構AICEが令和元年度大阪府消費生活センター「大学生期における消費者教育推進事業」の受託事業者に決定されました!
- 2019.1.20 イベント
平成30年度第3回企業×学生交流会を開催しました!
- 2018.11.25 イベント
平成30年度第2回企業×学生交流会を開催しました!



2. チラシ等による広報

本取組の中で以下の取組について、広く広報するために、チラシ等を作成した。

種類	内容	印刷部数	配布先
「大阪府消費者教育リーダー養成講座」募集ちらし	9/14、9/15の養成講座の募集用チラシ	1000部	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府下大学 75校 ・AICE 会員 13 大学にメール送信 ・本事業 HP へ募集掲載 ・関西 SDGs プラットフォームのイベント掲載並びにメルマガ発信
<p><連携プログラム></p> 和歌山大学 教養の森後期集中科目「消費者市民と社会」案内ちらし	12/14、12/21、12/22の授業案内ちらし	印刷なし	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌山大学学内 ・南大阪地域大学コンソーシアム単位互換科目とし同コンソーシアム HP に掲載 ・高等教育機関コンソーシアム和歌山の単位互換科目として同コンソーシアム HP に掲載
企業×学生交流会開催案内ちらし	第1回、第2回、第3回交流会の開催案内用ちらし	印刷なし	<ul style="list-style-type: none"> ・AICE 会員 13 大学にメール送信 ・本事業 HP へ募集掲載 ・リーダー会代表へメール送信。リーダー会からはLINEを通じて、リーダー会会員及び友人へメール送信 ・協力団体 ACAP、NACS へメール送信。各団体で会員企業へメール送信 ・リーダー会の学生を通じて個別に学生へ呼びかけ ・関西 SDGs プラットフォームのイベント掲載並びにメルマガ発信

3. ホームページによる広報

本取組の成果や、日々の取組内容については、ホームページに適宜掲載し、成果について情報発信した。

本取組のホームページ <http://www.aice-p.com/consumer/index.html>



産学協働人材育成機構AICEを活用した大学生による消費者教育推進の取組は、平成28年度、平成29年度、平成30年度、令和元年度大阪府消費生活センター委託事業「大学生期における消費者教育推進事業」として採択されました！

News

令和元年度

- 2020.1.26 **イベント**
[令和元年度第3回企業×学生交流会](#)を開催します！
- 2019.12.15 **イベント**
[令和元年度第2回企業×学生交流会](#)を開催しました！
- 2019.11.23 **イベント**
[令和元年度第1回企業×学生交流会](#)を開催しました！
- 2019.9.14-15 **講座**
[令和元年度消費者教育リーダー養成講座](#)を開催しました！

平成30年度

- 2019.1.20 **イベント**
[平成30年度第3回企業×学生交流会](#)を開催しました！
- 2018.11.25 **イベント**
[平成30年度第2回企業×学生交流会](#)を開催しました！
- 2018.11.11, 18 **講座**
[平成30年度消費者教育リーダー養成講座 第2弾](#)を開催しました！
- 2018.10.27 **イベント**
[平成30年度第1回企業×学生交流会](#)を開催しました！

Pick Up!



大阪府では、SDGsの推進を図り、SDGs先進都市をめざしています。本事業は、SDGsに掲げる17のゴールのうち、「12 つくる責任つかう責任」のゴール達成に寄与するものです。

4. 関西 SDGs プラットフォームへのイベント掲載

本事業の共同企業体の1つである産学協働人材育成機構 AICE は、関西 SDGs プラットフォームの会員であることから、本事業で実施している「リーダー養成講座」並びに「企業×学生交流会」について、本プラットフォームのホームページ上のイベントページに掲載するとともに、同内容のメールマガジンでの配信を行った。（資料 15）

本フォーラムのホームページやメルマガへの投稿は、本事業が SDGs の一環としても活動していることを外に向けて情報発信する狙いがあった。特に、リーダー会では SDGs を活動の柱の1つとして消費者教育の行動指針にも組み込まれていることがある。リーダー会のホームページのトップのスライドには、「SDGs（持続可能な開発目標）の12番目「つくる責任 つかう責任」を企業と学生が共に考える活動を行っています！」と宣言している。

関西 SDGs プラットフォームのホームページ <https://kansai-sdgs-platform.jp/>



第3章 取組に対する効果の検証

1. 効果検証のための調査について

効果を検証するために、実施した取組についてアンケート等による調査を行った。
調査で使用した質問紙は以下のとおりである。

番号	アンケート種類	対象	目的
1	「大阪府消費者教育リーダー養成講座」受講者アンケート ※独自開講のみ調査	受講生	本講座の目的が理解され、講座が受講者にとってどのようなものであったかを検証
2	交流会アンケート（学生用、企業用）	参加学生 参加企業等	交流会の参加者にとって、交流会がどのようなものであったかを検証。参加した学生、企業など立場によって参加動機も異なる事から、別の質問紙を用意した。

2. 「養成講座受講者アンケート」から見た効果の検証

（1）アンケート結果（平成28、29、30、令和元年度）

「大阪府消費者教育リーダー養成講座」を受講した学生に対して、全課程修了後にアンケート調査を実施した。（資料16、資料17）今年度は本講座の受講生が4名と少なかったことから、検証は、この4年間について行った。（和歌山大学の科目を受講した学生は入っていない。）

アンケート結果は、以下の通りであった。

<アンケート調査結果>

	H28	H29	H30	R1	合計
受講生回答数	21	18	17	3	59

【Q1 本講座をどのように知ったか】	H28	H29	H30	R1	合計	
チラシ	0	2	1	0	3	5%
友達の口コミ	4	0	2	0	6	10%
先生や大学関係者	16	15	12	2	45	76%
その他	1	1	2	0	4	7%

【Q2 受講動機(いくつでも可)】	H28	H29	H30	R1	合計	
講義内容	10	7	5	2	24	41%
自己啓発	6	4	2	0	12	20%
資格認定	12	12	9	2	35	59%
消費者教育について知りたかった	9	5	4	1	19	32%
消費者教育のスキル	5	4	5	1	15	25%
学生リーダー会活動に興味	5	1	3	0	9	15%
学生リーダー会活動に参加したい	2	3	1	0	6	10%
他大学の先生の講義	0	2	0	0	2	3%
大学以外の社会人講師の講義	2	3	1	0	6	10%
他大学の学生や社会人と知り合う	4	3	4	0	11	19%
ボランティア活動がしたい	1	3	3	0	7	12%
その他	1	0	2	0	3	5%

【Q3 受講して良かったこと(いくつでも可)】	H28	H29	H30	R1	合計	
普段の大学講義と異なる体験	14	10	7	1	32	54%
消費者教育の重要性が理解	11	9	9	1	30	51%
消費者教育学生リーダーの認定	8	9	3	0	20	34%
消費者教育のボランティア活動	7	2	1	0	10	17%
他大学の先生の講義	2	4	9	1	16	27%
大学以外の社会人講師の講義	7	3	8	1	19	32%
消費者教育学生リーダーの自覚	2	3	3	0	8	14%
他大学、大学以外の人との交流	10	7	3	2	22	37%
他大学の学生とのチーム活動	4	2	1	0	7	12%
その他	0	0	0	0	0	0%

(上記以外にあればお書きください)

- H28
- ・法律やキッカケなど、根本的な部分を学べて良かった。
 - ・消費者教育といった新しい分野について学ぶことが出来て良かったです。
 - ・自分で定めた目標「いい補佐になるためリーダーについて学ぶ」というものの全体像(?)が見えた。
 - ・サークル以外で社会人になっても消費者教育に取り組める場所(+つながり)が得られた。
 - ・消費者教育について知れたこと。
 - ・消費者教育について以前より知識を得られました。
- H29
- ・消費者教育がどのようなものなのかわかった。

- ・企業の人に直接お話しが聞けたこと。
 - ・消費者としての視点から社会を見て考えられた。
 - ・来年から、小学校教員として社会に出ていこうと考えている。学校現場で、消費者教育を展開していけるような授業のイメージをもつことができた。
- H30
- ・他大学の方と知り合い、話をするのがとても新鮮でした。
 - ・日本ハムの川口さんのお話を聞くことができた。自分のレベルの低さが分かった。
 - ・消費者教育の重要性を理解できた。

【Q6 安全・安心な消費生活を送る方法がわかったか？】

	H28	H29	H30	R1	合計	
よくわかった	2	2	1	1	6	10%
わかった	16	16	15	1	48	81%
あまりわからなかった	3	0	0	0	3	5%
まったくわからなかった	0	0	1	0	1	2%
その他	0	0	0	0	0	0%

【Q7「消費者市民社会」の形成のためにとるべき行動について】

	H28	H29	H30	R1	合計	
よくわかった	2	4	1	1	8	14%
わかった	16	13	14	2	45	76%
あまりわからなかった	3	0	1	0	4	7%
まったくわからなかった	0	0	0	0	0	0%
その他	0	0	0	0	0	0%

【Q4 不満だった点】

- H28
- ・ボランティアなどもスケジュールも事前に伝えて欲しかった。急に言われたのに、参加前提っぽく話が進んだので、行きたくても行けなかったのが申し訳ない。
 - ・自分がまだ消費者リーダーとして、物足りないと思った。
 - ・初めての講座での消費者社会の定義が分かるのに時間がかかり少し遅れてしまった。
 - ・もう少し時間が欲しかった
 - ・準備期間が短かった。1、2回と3回の間が長かった。
 - ・AICEの説明等、はじめの触りがもう少し欲しかった。
 - ・イベントまでの準備期間が少なかった
 - ・主催者さんの立ち位置がイマイチ分からず不安だった。(先生方の個人的な意見がとても聞きたかった。)
 - ・組織や所属が全くわからなかった。交流会の具体的な目的や目標がわからないまま参加したので、意義を見出せなかった。
 - ・時間がない。消費者教育、消費者市民社会について理解が浅い。
 - ・一気に講義を開きすぎ
 - ・強いて挙げるなら遅れて連携があまりとれなかったこと。
- H29
- ・休み時間をもう少しほしかった。
 - ・講義の時間が何度も前後したこと
 - ・資料が少し味けなく、見づらかった。
 - ・話がわからないことが多々ありました。同じことを何度も話していて、一番何を私たちに伝えたいのかが分からなかったです。
 - ・もっとわかりやすく説明して講義をしてほしい。
- H30
- ・場所が分かりにくく、迷った。
 - ・今年の参加者が少なく残念だった。
 - ・時間が長いと思いました。

- ・もう少し日本ハムさん（企業）の話を聞きたかった。
 - ・今後の予定についてのアナウンスが十分ではなかったと思う。
 - ・話がつまらない、もう少し興味をもてるような話し方をして欲しい。講義資料が見にくい、もっと単的にまとめることはできないのか、講義の仕方が面白くない、資料に書いてあるものだけを言われても眠くなる。今回2回の講義だけで良いと言われてたのに、交流会に出ないといけないとはどういうことなのか、ちゃんと情報共有して下さい。中途半端すぎる資格として。
 - ・資料にのっていることがあまり話されなかった点。資料を見ても分からないから、メモを取るが、すぐ話が変わって、最後までメモできなかった。
- R1
- ・あまりきちんと理解しないままに、企画作りをしてしまったこと。

【Q5 消費者教育学生リーダーによる消費者教育普及啓発活動についてどう思いますか？】

- H28
- ・学生が活動する点は、良いと思った。学生の中には、何かイベントをしたい、資格が欲しくて来る人、意図を理解してもらう必要があると思った。
 - ・消費者リーダーにとって自分の意識を高めるチャンスだと思う。
 - ・まだ、あまり経験がないので、今度の企業との交流会やもっと色々な場所で啓発を行なっていきたい。
 - ・もっと消費者教育を世間に知ってもらえるようにしたい。
 - ・すごく良いと思う
 - ・一人一人が考えないといけない問題だと思うので、活動していくことは大切だと思います。
 - ・普段あまり体験できない活動が出来たので良かったです。
 - ・貴重な体験だった
 - ・良い取り組みだと思う
 - ・講義で得たことの何を啓発するのが分からない。
 - ・参加者が受け入れやすいと思う（権威的でない、楽しさも加えられる）。専門性に欠けることから、誰かと協力しなければならぬ。協力相手のメリットになれば良いと思う。
 - ・大学生期にこういった活動は最適だと思う
 - ・いろいろなボランティアを自主的に参加し、主催していくことで社会に貢献できるのだと思います。
 - ・これから頑張って広げていきたいと思っています。
 - ・個人として行なっていくことも大事だと思いますが、リーダー会として組織化をしっかりとやっていく必要があると思います。
 - ・大人が教えるよりも同じ立場の人が教えることで親しみも増してとても良いと思う。
 - ・自分のことなのに周囲の人にも影響を与える活動なので、そこは素晴らしいなと思ったし、参加も考えておきたい。
 - ・必要性の高いものだと思う。悪質な商法を減らせると思う。
 - ・消費者の身近には様々な危険があるので、活動で他の人々にも知らせられるのはとても良いと思います。
- H29
- ・消費者教育普及啓発活動というのを聞いたことがなかったので、もっと多く活動していったほうが名前を広げられると思う。
 - ・学生リーダーが活動することで大学内でのネットワークができ、それを超えたネットワークもできると思う。
 - ・消費者教育学生リーダー一期生の人達に話を聞いていると、この活動はとても社会に良い影響を与えていると思いました。
 - ・消費者各自が自分の身を守るようになるためにも、もっとこの活動が広がってほしいと思う。
 - ・消費者教育のことを知らない人はたくさんいると思うから、とてもいいと思う。
 - ・自分たち一人一人が自主的に取り組むものである。
 - ・教える方も教えられる方も、いい体験になると思う。
 - ・自分の成長にもつながる活動ができるので、とても良いと思う。
 - ・良いことだと思いますが、学生もさらには企業の方々も知らないことがあるので、もう少し広められたらいいのかなと思います。
 - ・このような取り組みは大人が学生に対して取り組んでもあまり進まないと思うので、同世代の学生が学生に取り組んだ方が良いと考える。
 - ・消費者教育は必要だと思う。
 - ・大学生等の若い世代の人は、同世代の人から啓発されることで、より身近に感じ、考えられそうで良いと思います！
 - ・企業との関わりをもちながら、自分たちで企画を考えながら活動できる場所がいいと思いました。
 - ・インターネットの普及によって、トラブルなどが増え、社会問題になっているので、社会からとても必要とされると思います。
 - ・こらからの社会にとって、必要になると思います。

- H30
- ・リーダーを集めるために、もっと知らせるべきだと思います。興味のある学生はたくさんいると思います。
 - ・自分も活動に参加したいと思った。
 - ・消費者教育学生リーダーが主体となって取り組んでいる活動なので、その活動を推進することを非常に良いと思う。
 - ・日頃、消費者として過ごしていながらも、消費することについて、ここまで深く考え、学んだことがなかったので、啓発すべきだと感じた。
 - ・同じ大学生なのに頑張っている人がいると、刺激を受けました。
 - ・これからの時代を担う若者に対して、消費者教育をすることは、とても大切だと思うから、良い活動だと思う。
 - ・学生の新しい考え方が社会に反映されて良いと思う。
 - ・同世代である人たちがしっかり話せており、自分も深く考えるきっかけとなりました。
 - ・参加する前に思ってたよりも、規模が大きいいろんな企業がかかわっているなと思った。
 - ・今後、需要が高くなると思うので良いと思う。
 - ・知っておいておいた方が良い知識ばかりなので、良いと思いました。
 - ・イマイチどういった内容をしているのか分からなかったのですが、何がどのように良い活動なのか分かりませんでした。
 - ・学生が自分達からこういったことを考えていることは、今後の社会につながると思うから、とても良い機会だと思う。
 - ・他の大学生が経験していないことを経験することができるのは良いと思う。
- R1
- ・学生中心にすると効果的だと思う。
 - ・次の若い世代に広げるために大事だと思う。

【Q9 自由な意見】

- H28
- ・消費者リーダー会で自立、独立の大切さ重要さがわかりました。
 - ・時間の割り振りが厳しいと感じた。学生リーダーで集まる機会を学生リーダー会で決めていけないといけない。
 - ・短期間の中で消費者教育とは何かを学び、さらに子供達にゴミの問題を教えるイベントが、こんな短期間で出来るとは思わなかった。
 - ・自分はまだまだリーダーではないと思います。
 - ・消費、消費者市民社会について、知識・意識がバラバラ過ぎる！ 内部学習のしくみも必要だと思います。
 - ・まだ、これから大学の力で演劇があるので、しっかり頑張りたいです。
 - ・市のイベントで活動していましたが、今後は学校に行き「みんなに」見てもらう機会が増えれば良いのではないかと思います。
- H30
- ・今回の講座で学んだ内容を生かして、積極的にボランティア活動に参加したい。
 - ・他大学の人と交流できて良かった。受講前より、自らの消費者としての考え方が変わった。貴重なお話を聞かせて頂き、ありがとうございました。
 - ・イマイチどういった活動をしているのか講義を受けても分かりませんでした。どういった話をしていいのか、何の話だったのか、どういう意図で作られた資格なのか、どういった資格なのか、多分話してはくれたのですが、理解できないまま終わりました。どういう面で活躍する資格なのかを把握できません。結局何の講義だったのでしょうか？受けてためになった！という話は、正直に言ってありません。資格としてできたばかりの物だからか分かりませんが、内容のうすい資格だなという印象を受けました。もっと明確にどういう資格なのかを表して欲しいと思います。正直、眠い講義でした。あと、予定はもっと早く出せないでしょうか？大学生もヒマしている訳ではないので予定をあわせられず困ります。遅いとバイトや他の予定をいれるのもっと早く予定を出して欲しいです。日本ハムのお客様からのクレームに対する改善の仕方には驚き、興味を持ちました。最後の感想の時に、「お客様が神様化している」と言ったことで少し目的が分かりました。
 - ・毎回、予定を出される日が遅いため、2年の後半にやっと受けることができた。先生からは、11日と18日空けるようにと言われてたため、ちゃんと、報連相してほしいなと思った。1ヶ月前に言われたら空けることができるのに、1週間前に言われても無理です。どれだけ調整してと言われても、難しい。バイト先にも迷惑をかけてしまうし、家族にも迷惑をかける。大学生の予定をもう少し考えてほしい。絶対に予定を空けておいて欲しいなら、最初から伝えておくべき。講義に関しては、受けた人から話は聞いていたとおり、つまらなかった。唯一、横田先生のときだけ、すごく楽しく受けることができました。

(2) 効果の検証 (平成 28、29、30、令和元年度)

受講者アンケート結果から分かった事は、以下であった。

(広報)

- ・講座の広報については、今年度についてもいえるが、先生や大学関係者からの呼びかけで参加している学生が多い(76%)。ただ、昨年度から第1回目の講座の応募が激減していることから、現在の独自講座を開講し、府内大学へチラシ等で広く案内する手法は限界があることがわかる。個別の教員による呼びかけが大きな効果を出していることは、今後の広報の仕方や講座の持ち方について検討するための示唆となる結果となった。

(受講動機)

- ・最も多かったのが「資格認定」(59%)で、資格認定が受講のインセンティブになっていた事が分かる。
- ・次に多かったのは「講座内容」(41%)、「消費者教育について知りたかった」(32%)「消費者教育スキル」(25%)、と続き、消費者教育への関心の高い学生は3割弱であった。この4年間実施してきてわかっていることは、元々消費者教育について知っている学生が極めて少ない状況にあることで、応募してきた学生でも3割程度の関心であるとする、消費者教育というテーマで学生を募集することに限界があるといえるのではないか。
- ・「学生リーダー会活動に興味」(15%)、「ボランティア活動がした」(12%)、「他大学の学生や社会人と知り合う」(19%)であった。学生リーダー会活動を広く知ってもらうことが受講生の増加につながる可能性がある。

(受講してよかったこと)

- ・受講してよかったことは、「普段の大学講義と異なる体験」(54%)、「消費者教育の重要性が理解」(51%)、「消費者教育学生リーダーの認定」(34%)、「大学以外の社会人講師の講義」(32%)、と講座内容が学生に理解されていること、また、大学での学びと違った体験に興味を示していたことが伺えた。
- ・受講動機として「大学以外の社会人講師の講義」は10%とそう多くないが、受講してよかったこととして、大学外の教員や社会人講師に興味を持っていることや大学での体験とは異なる体験が挙げられていた。今後の講座づくりについて、本講座の特徴であるいろいろな大学や企業や行政等との連携した内容に注力することが良いことが分かった。

(不満だった点)

- ・交流会企画を考える際に、交流会の目的についてあまり理解しないまま企画したことを反省点として挙げていた。消費者教育の概論だけでなく、なぜボランティア活動や交流会を実施するのか等について、さらに理解を深めることが必要であることがわかった。

(消費者教育普及・啓発活動)

- ・さらに学生中心にすると、もっと効果的になるとの意見があった。

3. 交流会アンケートから見た効果の検証（学生・企業）

今年度3回実施した交流会について、それぞれの立場で参加の目的や意図が変わるだろうことから、学生、企業の方それぞれに、別の調査紙を用意して、各回の参加修了後にアンケート調査を行った。今年度は、和歌山大学の科目「消費者市民と社会」を受講した学生が多く参加したことから、従来と違った意見も聞かれた。そこで、実施した内容及び交流会で得られたアンケート調査結果をもとに、この4年間を振り返ってみる。

（1）アンケート結果（第1回、第2回、第3回）

調査紙は、第1回、第2回、第3回とも同じ質問紙を使用した。

例年企業からはもっと学生の参加を促すようにとの要望が強かったが、今年度は和歌山大学の科目の受講生が多く参加したことから、その点については企業の要望に応える形となった。アンケート結果は、例年と大きな差異は見られなかった。そのため、アンケート結果の主な検証については、「（2）効果の検証（平成28、29、30、令和元年度）」でみることにする。本項では、自由記述をみることにする。理由は、本年度、例年の一般公募で参加した学生とは違い、和歌山大学の科目の受講生で消費者教育のことはあまり知識がなく、単位取得を前提として講座を受講した学生が多く参加してと思われることから、消費者教育に元々興味関心をもってきた従来の学生と、今年度の学生の違いを自由記述から考察してみることにした。

アンケートの自由記述の結果は、以下の通りであった。

<学生>

【Q4 参加してみて不満だったことは？】

- ・スライドがたまに動かなかった
- ・グループディスカッションの時間ももっとあれば良かったと思った。
- ・空調が少し寒かったです
- ・少し時間が短かったです。（話し合い）
- ・少し会場に行くまでの道のりが複雑だったので、迷ってしまった。
- ・リーダー会の活動を舞台などでやっている内容はすごいと思ったが、説明の間などに「いちおう」などの言葉を言ったりと、いちおうではなく、ちゃんとしているのかという疑問が生まれた。あと、締め切っていて、空気が悪かったので、換気をして欲しかった。
- ・ワークショップの目的が正直、明確ではなかったことです。
- ・リーダー会の司会、発表がヘタ。グループディスカッションのテーマが良く分からない
- ・時々、時間配分が悪く感じた。
- ・話し合う内容についての具体的な説明とその意味について、しっかりとした説明がないことが混乱を招いた。
- ・23階は少し遠かった
- ・ワークショップのお題が当たり前のことが多くて、新たな発見が少なかった。
- ・もう少し時間が欲しかった。（ワークショップ）

【Q7 今回の交流会や消費者教育や学生リーダー会などについて自由な意見】

- ・単位のためと思い参加したが、とてもタメになった。
- ・普段、能動的に動くことがなく、単位のためでなかったらこういう活動に参加することもなかったと思うので、貴重な体験でした。
- ・普段しゃべらないような企業の方と話せて楽しかったです。

- ・靴の正しい履き方を学びました。これを機に足の健康について気をつけていこうと思います。実際、企業の方々と語り合う機会を頂きありがとうございました。
- ・様々な意見が聞けて良かった。
- ・貴重な機会になった。
- ・意見を実際に話して交換できるのが良かった。大人ともっと話してみたいです。
- ・生徒だけでなく、企業の方々とも意見を出し合えたので、新鮮で楽しかったです。
- ・1回生のうちから、このような企業様と交流できるのは、とても良い経験でした。
- ・自分のスキルの未熟さに気づきました。また、参加したいと思いました。
- ・非常に貴重な経験ができてよかったです。ありがとうございました。
- ・交流会の時間をもう少し長くしてもいいと思った。
- ・企業の方の意見を聞ける、貴重な機会でした。
- ・企業の方と交流が出来て良かった。
- ・普段、中々企業の方々と関わる機会がないので、とても良い機会になりました。
- ・普段、企業の方と関わる機会がなかったため、ワークショップを通じて、1つのことに取り組めてとても充実した時間になりました。
- ・企業さんのお話が聞ける機会はなかなかないと思うので、貴重なお話がお聞きできて良かったです。パナソニックさんは、電化製品のイメージが大きかったけど、電気のシステムや環境という大きな規模で事業を展開されていることがわかりました。
- ・今後もこのような機会があれば参加したいと思います。
- ・良い体験ができました。ありがとうございました。
- ・楽しかった。

<企業>

【Q4 参加してみて不満だったことは？】

- ・特にありません
- ・特にありません（もっと学生も企業もたくさんの方が参加できると良いですね）
- ・ディスカッションの方向づけをもう少し自由にしても良かったのではと思いました。せっかく、企業と学生が交流する機会なので、少し結論ありきの討論だったように感じました。
- ・なし

【Q7 今回の交流会や消費者教育や学生リーダー会などについて自由な意見】

- ・環境の異なる人との交流は、視野が広がり良いと思います。
- ・がんばってください！！
- ・初めて参加した。靴を選ぶという消費行動について、意見交換できたことは、とても面白かったです。どう選ぶかを考えていくことを一緒に話し合うことの大切さを学びました。
- ・懸命に前向きに意見をまとめて発表されたことは、大変良かった。
- ・年々、年を重ねるごとに、内容が充実してレベルが高くなっています。今後の発展を期待します。
- ・グループ討議で出た話を上手くまとめて発表できるスキルに関心した。
- ・企業×学生交流会は、双方にとって良い企画だと思います。良いテーマを見つけて継続して下さい。
- ・これから社会を支えてくれる若者が、このような機会に自分の消費行動を見つめ直すことで、これからの人生の選択、日々の消費行動が変わるのではないかと、とてもうれしく思いました。
- ・やはり、学生の意見は大変参考になった。自身の勉強になりました。
- ・靴のことを改めて考える良い機会となりました。ありがとうございました。
- ・ACAPとして、更に連携したく、よろしく願い致します。
- ・廃棄ロスを飢餓へ再生できないか？（うどんは、15分で廃棄） 冷凍、フリーズドライ→パスタ、パン→粉ものへ
- ・学生との接点はあまりないので、貴重な機会だと思う。
- ・是非、また、参加させて下さい。
- ・学生達の意見を直接伺えたのが良かったです。
- ・毎年、レベルアップが図られていて、素晴らしいと思いました。
- ・進行もよく、発表内容も分かり易くとてもよかったです。
- ・これからも一緒に価値共有と創造していきたいです。
- ・男女分け、企業の業種分けでグループ化すると多様な話し合いができるのでは
- ・行政、事業者、消費者がときに、消費生活について学び、考える機会として有意義な場であると感じます。消費者、生活者の先輩世代も巻き込んでいけば、より楽しく実のある機会になりそうな気がします。(生協の組合員)がいればもっと面白いですよ。

- ・親の世代のあたり前と今の学生のあたり前のギャップを今一度、見直すことが、これからの企業がやるべき課題なのだろうと、次へのヒントになりました。学生のあたり前は、学校教育がベースにあることが改めて感じられた時間でした。(ワークショップにて)

自由記述から見てきたことは、以下であった。

【学生】

(不満)

- ・交流会の運営の仕方について、参加学生から厳しい意見がいくつか見られた。交流会の企画を担当した今年度リーダー会参加者が当初少なかったことから、特に第1回、第2回の交流会は運営スタッフの人数が限られていたことや主担当者が当日参加できなかったこともあり、ワークショップでのテーマ理解が十分でない学生がテーブル担当ファシリテーターを担当せざるを得ない状況が生まれたことがこうした不満につながった。交流会の企画・運営担当だけでなく、例年のようにリーダー会メンバーによる当日スタッフが一定数確保する必要がある。

(自由意見)

- ・単位取得のために参加した学生から、「とてもためになった」という声がいくつか聞かれた。大学で単位認定のために科目を受講する学生の中には、消費者教育についてあまり関心のない層あるいは消費者教育のことを知らない学生が一定数参加していると思われる。また、今回第1回交流会ではまだ講座を受講していない学生、第2回では1日だけ講座を受講したばかりの学生が参加した。そうした消費者教育にあまりなじみのない学生が交流会に参加することで、消費者教育や企業の消費者志向経営の活動に興味を持つ機会になれることは、大きな発見と言える。
- ・企業と一緒にワークショップを通して、企業の方や大人と話せる機会に良さを感じている学生が非常に多い。アンケート項目の中で【Q3 参加してよかったこと】について聞いている。この中で「企業の消費者の配慮を知ることができた」(44%)、「企業活動の多様な側面を知ることができた」(52%)と、企業の新たな側面を知る機会にもなっていることがわかる。
- ・ワークショップは、企業の方と直接話ができ意見交換できる貴重な場となっていることがわかる。そのためもう少しワークショップの時間を長くすることを希望する学生もいた。

【企業】

(不満)

- ・不満がほとんどみられなかった。
- ・ワークショップでは、もう少し自由な議論ができるようにしてほしいとの意見があった。ワークショップの設問など、工夫が必要。

(自由意見)

- ・学生にエールを送っていただける企業の方があり、また、学生が一生懸まとめを発表する姿にも評価していただけて、学生やリーダー会にとって励みになる。
- ・企業×学生交流会をよい企画であると、また、年々内容もよくなっているとの評価をいただき、継続していくことで積み上げてきているものがあることを改めて感じる。
- ・学生との接点の少ない企業にとって、直接学生の意見が聞けたり学生の取り組む姿勢を見ることができるなど、良い機会となっているとの意見が多かった。
- ・企業と学生が同じテーブルで共有できることに良さを見出していただいていることがわかった。

(2) 効果の検証（平成 28、29、30、令和元年度）

交流会では企業等と学生に対してアンケート調査を実施している。この4年間をアンケート結果から振り返ってみる。

<アンケート調査結果>

なお、企業の回答者数は毎年参加者数の変動がないが、学生は年度によって人数の差がある。そこで、変化をみるとき、割合で比較することとした。

【回答数】

	H28	H29	H30	R1	合計
企業 回答数	29	24	28	44	125
学生 回答数	39	47	24	54	164

【Q1 本交流会をどのように知ったか】

【企業】	H28	H29	H30	R1	合計	
チラシ	0	0	0	0	0	0%
友達の口コミ	3	2	1	0	6	5%
所属団体からの誘い	18	18	26	38	100	80%
HP	1	0	0	1	2	2%
その他	8	4	1	6	19	15%

【学生】	H28	H29	H30	R1	合計	
チラシ	1	3	2	2	8	5%
友達の口コミ	16	4	7	1	28	17%
先生や大学関係者	12	28	14	46	100	61%
HP	0	1	0	1	2	1%
その他	9	11	2	4	26	16%

企業、学生ともに、4年間を通じて所属団体や大学関係者からの誘いが一番多かった（企業80%、学生61%）。学生については、友達からの口コミが1年目は多かったものの減少傾向にある。学生については、今後、友達の口コミを増やしていくことが参加者を増やしていく1つである。

【Q2 参加動機】

【企業】	H28	H29	H30	R1	合計	
交流会の内容	9	7	12	24	52	42%
学生のお話を聴けるから	10	10	13	22	55	44%
学生がどう考えているのか知りたかった	19	14	20	28	81	65%
リーダー会活動に興味	10	5	6	10	31	25%
学生と交流するチャンス	12	11	14	14	51	41%
知人や所属団体に誘われた	6	1	9	15	31	25%
その他	1	2	0	3	6	5%

【学生】	H28	H29	H30	R1	合計	
交流会の内容	18	12	10	20	60	37%
自己啓発	10	8	5	7	30	18%
企業の話	16	11	11	28	66	40%
消費者教育について知りたい	5	11	3	5	24	15%
消費者教育のスキルを身につけたい	13	13	4	4	34	21%
リーダー会活動に興味	8	6	2	3	19	12%
他大学の学生や社会人と知り合う	11	9	4	7	31	19%
ボランティア活動がしたい	2	1	3	3	9	5%
友人や先生に誘われた	12	11	10	15	48	29%
その他	3	5	1	11	20	12%

参加動機は、企業は、「学生がどう考えているのか知りたかった」（65%）、「学生のお話を聞けるから」（44%）、「交流会の内容」（42%）、「学生と交流するチャンス」

（41%）と続いた。企業は、学生たちと交流し、どう考えているのかを知りたいと思って参加している人が多かったことがわかる。加えて、この4年間を通じて、交流会の内容に興味をもつ企業の方が増えているが、積み重ねてきたことが良い効果を生んでいるものと思われる。また、リーダー会の交流会企画の活動が評価されたといってもよい。今後、さらに内容を充実させていくことが大事である。

学生は、「企業の話」（40%）、「交流会の内容」（37%）と続いた。企業に興味をもって参加する学生が多いことがわかる。「友人や先生に誘われて参加」（29%）した学生も多い。一方で、「消費者教育のスキルを身につけたい」（21%）という積極的な姿勢を見せている学

生も多く、今年度はリーダー会の学生の参加が少ない中で消費者教育に関わろうという意識が見えたことはうれしい点である。

【Q3 参加して良かったこと】

【企業】	H28	H29	H30	R1	合計	
学生がどう考えているかを知ることができた	24	22	17	30	93	74%
学生リーダー会活動を知ることができた	21	7	12	27	67	54%
学生と交流することができた	15	12	16	27	70	56%
企業活動の多様な側面を知ることができた	3	5	8	12	28	22%
その他	1	0	0	0	1	1%

【学生】	H28	H29	H30	R1	合計	
消費者教育について考えることができた	26	31	13	29	99	60%
消費者教育活動に興味を持った	11	11	5	17	44	27%
学生リーダー会活動を知ることができた	11	10	6	6	33	20%
消費者教育の普及啓発活動をしたいと思った	6	10	5	4	25	15%
企業の消費者への配慮を知ることができた	19	23	11	24	77	47%
企業活動の多様な側面を知ることができた	23	19	8	28	78	48%
学生や企業の方との交流関係が広まった	13	11	7	8	39	24%
学生や企業の方とのチーム活動	10	14	10	15	49	30%
その他	0	1	0	1	2	1%

参加してよかったことは、企業は、参加動機と同じ項目が1番「学生がどう考えているのか知ることができた」（74%）、次に「学生と交流することができた」（56%）との結果となった。本交流会に参加したことで、「学生リーダー会の活動を知ることができた」（44%）も3番目に挙がっていた。交流会がリーダー会活動を積極的に企業に伝えていく機会になっていることが分かった。

学生は、1番に「消費者教育について考えることができた」（60%）と、交流会に参加して、改めて消費者教育と向き合っている姿が分かった。2番目に「企業活動の多様な側面を知ることができた」（48%）、「企業の消費者への配慮を知ることができた」（47%）、と消費者教育を通じて企業の新たな面を理解していることが分かった。これは、交流会が、通常の企業説明会などとは異なり、企業理解を促す上で効果的であることを示している。今後、本取組がキャリア教育や就職支援などで取り組んでいる企業理解について、それらの取組とは異なるアプローチで企業理解を深めることができることがわかる。交流会を広く大学や学生に周知していくときの1つのヒントがそこにあると言える。

【Q5 今後このような交流会があれば参加したいか？】

【企業】	H28	H29	H30	R1	合計	
ぜひ参加したい	23	22	15	37	97	78%
友人を誘って参加したい	2	1	4	3	10	8%
参加するかもしれない	4	0	6	2	12	10%
参加しない	0	0	0	0	0	0%
わからない	0	0	1	1	2	2%

【学生】	H28	H29	H30	R1	合計	
ぜひ参加したい	28	20	9	16	73	45%
友人を誘って参加したい	0	9	3	11	23	14%
参加するかもしれない	9	16	9	21	55	34%
参加しない	0	0	0	1	1	1%
わからない	2	2	3	5	12	7%

今後交流会に参加したいかを聞いたところ、企業、学生ともに1番が「ぜひ参加したい」(78%、45%)、「参加するかもしれない」(10%、34%)と続いた。学生については、「友人を誘って参加したい」が、1年目が0%、2年目19%、3年目13%、今年度20%と伸びている。今後、学生の口コミで参加が広がることに期待したい。

【Q6 今回の交流会には満足か？】

【企業】	H28	H29	H30	R1	合計	
大変満足	22	15	5	27	69	55%
満足	6	8	20	16	50	40%
普通	0	0	1	1	2	2%
やや不満	0	0	0	0	0	0%
不満	0	0	0	0	0	0%

【学生】	H28	H29	H30	R1	合計	
大変満足	21	29	9	15	74	45%
満足	18	15	5	29	67	41%
普通	0	3	7	9	19	12%
やや不満	0	0	1	0	1	1%
不満	0	0	2	1	3	2%

交流会の参加満足度を聞いたところ、企業、学生ともに「大変満足」（55%、45%）、「満足」（40%、41%）と参加者の90%前後が満足を示した。例年、企業からはもっと学生の参加を促すようにとの意見が多く聞かれたが、今年度は和歌山大学の受講生が多く参加したことが、満足度の向上に寄与したと思われる。今後、交流会のプログラムや学生の参加者数の増加など、さらに力を入れていくことが重要である。

第4章 今後への課題と展望

1. 今後への課題

(1) 大阪府消費者教育学生リーダー参加者の確保と拡大

今年度は、昨年度にも増して養成講座の受講生の応募が少なかった。昨年度の状況から今年度の応募者を集めることへの苦戦は予想されていたが、実際、応募者が4名にとどまった。昨年度も、第1回目の受講者は4名だったため、現状では、チラシやホームページ等を通じての一般公募では、これ以上の拡大は難しいことが見て取れた。

今年度はそのことを見越し、大学の教育課程との連携で養成講座のすそ野を広げ、リーダー会に参加する学生を増やそうと企図した。本科目は和歌山大学から単位認定される。その結果、連携協力校の和歌山大学で開講した科目「消費者市民と社会」の受講登録した学生が91名、実際に受講した学生が66名、学生リーダー会に登録した学生が32名と和歌山大学ルートでのリーダー会への参加者を一定確保できた。資格取得以外に、学生が考えるインセンティブとして大きいのは単位取得であることが改めて確認できた。

また、本講座は、南大阪地域大学コンソーシアムと高等教育機関コンソーシアム和歌山の単位互換提供科目になっていたことから、科目を開講している和歌山大学の学生だけでなく、2つの大学コンソーシアム単位互換制度に参加している大学の学生は、本講座を受講することができる形が整っていた。今回単位互換制度を活用して受講した他大学の学生は、大阪府内に限っては1大学3名のみにとどまった。ただ、単位互換制度を活用することで、南大阪地域大学コンソーシアムから11大学等、高等教育機関コンソーシアム和歌山から7大学等から受講することができることから、すそ野拡大の観点からすると、大学コンソーシアムの単位互換を利用することは大きな意味がある。

一方、リーダー会への参加に大きく影響すると考えられる「大阪府消費者教育学生リーダー」の資格認定の要件にあった「大阪府在住又は在学」の要件がなくても、本事業を通じて消費者教育の普及啓発に貢献するリーダー会活動に参加する学生については、資格認定するよう対応いただいたことから、参加をあきらめていた学生複数名がリーダー会活動を継続することを決めたことも次につながると考える。

<以上から推測されること>

- ・従来型のチラシやホームページ等を通じて学生の自主的な意思による参加を待つ一般公募の形式では、学生からの応募は限定的と思わざるを得ない。
- ・大学の教育課程で開設される単位認定科目との連携は、多くの受講生が望めることがわかった。

- ・大阪府在住又は在学でない学生が受講する場合も多く、こうした学生をリーダー会で受け入れる仕組みに変更することで、さらに参加を増やすことができる可能性がある。実際、以前は、応募してくる前に、大阪府在住又は在学でない学生については、資格認定ができないため積極的に参加を呼びかけてこなかったことがある。

以上から、学生の応募を増やすための有効なアプローチ方法について以下に列挙する。

<学生の応募を増やすためのアプローチ方法について>

- ・本講座で実施している「大阪府消費者教育リーダー養成講座」に準ずる科目を大学の教育課程の中で開設できる大学に協力を呼びかける。
- ・大阪には、南大阪地域大学コンソーシアムの他に大学コンソーシアム大阪があり単位互換制度をもっている。主に大阪市内北から東にかけての大学が所属しており会員大学数は41大学と多い。大学コンソーシアム大阪に所属する大学の中から、科目を提供していただける大学に協力を呼びかけることもすそ野を広げる上で重要となる。なお、次年度の布石として、今年度の企業×学生交流会に、大学コンソーシアム大阪から見学にきていただき、取り組み内容について理解をしてもらう機会とした。
- ・消費者教育に親和性のある学部や学科へのアプローチである。教育学部であれば家庭科専門の教員志望の学生、ACAPの会員企業に見られるように食品関連の企業が多いことから、食物栄養を専門とする学部や学科へのアプローチも有効であると思われる。
- ・交流会の参加学生へのアンケートからは、参加してよかった点として、「企業の多様な側面を知ることができた」「企業の消費者への配慮を知ることができた」「企業の人と一緒にチーム活動」「企業との交流」を挙げている学生が多い。交流会が企業理解の新たなアプローチになっていることが分かる。そこで、企業理解を深めたいと考えている大学のキャリアセンターへのアプローチを増やすことも重要となる。
- ・リーダー会の学生の中から、毎年卒論に消費者教育やリーダー会活動をテーマとして取り組む学生が出ている。リーダー会活動と学業との連続性について、もっと大学にアピールしていくことで、大学に理解を深めてもらう一助となる。

(2) リーダー会参加学生の卒業と活動の継続

リーダー会が平成28年度に発足して今年で4年目となる。これまで88名の学生がリーダー会に登録し、今年度までに25名が卒業している。卒業した学生の対応についてこれまで決まったものがなかった。

そこで、4月26日に開催した第1回リーダー会議で、「卒業時の対応について」学生間で議論した。卒業生については、これまでのリーダー会での活動や参加している学生間の関係もあり、養成講座に登壇してもらったり、交流会への参加を呼びかけたりと、卒業しても

協力を依頼することがあった。学生間では、ラインでつながっていることから、情報交換や適宜集まったりと、交流が続いているのが実情であった。そこで決まったことは以下であった。

- ・卒業してもリーダー会への参加は希望があればOKとする。
- ・ラインで継続して情報をうけとることができる。
- ・継続を希望しない卒業生は、ラインを削除することで意思表示する。

卒業して社会人になった人たちは、リーダー会の学生のロールモデルの1つとなる。リーダー会の活動や消費者教育への理解が、社会でどのように生きてくるのかを伝えてくれる人材でもある。社会人になることで、大阪以外に就職する人も出てくるが、本事業では、「大学を卒業して社会に出れば、社会を動かす重要な構成員の一人となる、社会に出た時には消費者市民社会の実現に向け積極的に活動を行うことができる力を持つ大学生を育成」を目的に掲げている。この目的に沿うためにも、卒業生は、本事業に継続して協力してくれる存在であるだけでなく、本事業でどのように成長したか、あるいは本事業で獲得した知識やスキルをどう活かしているのかなどを知る、本事業の成果を体現した人材である。今後も本事業に継続して興味を持ってくれ続ける卒業生を大切にしておくことが、事業のアウトカムの1つを知るよい機会となるだろう。

2. 今後への展望

本事業は、平成24年の「消費者教育の推進に関する法律」における中心的課題である、「幼児期から高齢者までの各段階に応じた消費者教育の体系的実施」、ならびにこれを通じた「消費者市民社会の形成」に関し、概ね18歳から20歳代前半の「大学生期」にある若年市民層に対する消費者教育の研修活動を通じ、消費をめぐる課題に関する教育的指導者（リーダー）を育成することを目的としている。

平成25年度より文部科学省の支援によって開始した私たちのチームの「消費者教育担い手育成」の取り組みは、平成28年度からは大阪府消費生活センターによる本事業に引き継がれ、本年度の事業により既に4年目を終了したことになる。私たちがこれまで取り組んできた事業は、年度毎にそれぞれ異なった重点課題はあるものの、略言すれば、若年層における「担い手育成を含む消費者市民教育の推進」と、これを支える持続可能な「消費者教育システムの構築」、そしてその結果形成される学生による「若年層による消費者教育推進組織の支援」に集約できる。ここまでの取り組みを通じ、関係者の一人としては一定の社会的効果はあがっていると考えるが、とはいえ今後の更なる発展に向け、いくつかの課題とその向こうにある将来的な展望について論じておきたい。

① 参加学生の確保

本事業は「大学生期」を謳う事業として、公教育機関としての「大学」に所属する市民を主たるターゲットとして想定しつつ展開している。消費者教育（あるいは市民教育）の担い手として

若年層を組織的に育成することは、世代循環の考え方から見ても有効かつ合理的なものである。ただ、近年の大学生にとって「社会貢献」は、もはや所属する大学におけるカリキュラムとして既に公式に組み込まれており、空間的に広がる地方公共団体（地域行政）の枠組みから直接働きかけることが相当困難となっている。最終的に（例えば卒業後）それぞれの大学生が所属（居住）する自治体に一定の貢献を行うことは期待できるとしても、現状そこに至るまでの仕掛け（参加学生にとってのモチベーション喚起など）ができるのはあくまで、組織化されたカリキュラムを提供する各「大学」であり、ピュアな「社会意識」のみを期待しつつ、「大学生」を公募したところで、現代の若者の琴線に触れることは誠に以って至難の技である。こうした実情に鑑み、今年度においては行政の広報媒体等を用いた、いわゆるフリーハンドの募集だけではなく、より広域の、地域型大学コンソーシアムの「単位互換制度」を活用した「大学授業」としての消費者教育リーダー育成事業を別途実施することとした。

こうした試みは、若年リーダー育成における数値目標の達成において一定の成果をあげており、今後に向けて評価しうるものであると考える。

② 継続性の問題

「大学生期」という表記は、「近い将来における地域社会の担い手」という意味で極めて希望に満ちた表現である。ただ一方で、これは時間的、あるいは社会的立場の観点から限定を加えるものであり、該当する人とそうでない人の区別は明確である。「大学生」だから学ぶことであって、その立場でなくなった人にとってどうなのか、という問いに対して、「心を育てる」という期待を将来にわたって抱かせるほど、本事業のカリキュラムは時間的・制度的に深く位置付けられているものではなく、その効果は教育学的に見ても極めて限定的である。そのための仕掛けとして私たちは講座終了後の「消費者教育学生リーダー会」への所属を期待しているのであるが、これも必ずしも「義務」ではなく、やはり個々の学生の「良心に期待」しているのであり、実際、登録を行った者にとっても「学生リーダー会」と称する以上、当初から時限の切られた活動ということになる。これは、上記した戦略としての「大学での単位化」においても同様であり、要するに単に卒業単位として必要だから学ぶというように形式に陥ってしまう危険性がある。法の語る「消費者市民社会の構築」は、すべての世代にわたって求められる課題であり、従ってここに言う「継続性の問題」とは、単に大学生リーダーとして消費者教育活動を続けてほしい、ということだけでなく、継続しうる受け皿をどうするか、という問題でもある。

③ 広域連携

上記したように、今年度は大学における単位互換の授業としての位置付けも合わせて事業展開を進めたが、そうした試みによって新たに生じた課題もあった。元来「単位互換制度」とは、特定の大学において提供する授業科目について、協定や契約に基づいて他の大学における取得単位として認めていくというものである。つまり起点となる大学があって、その大学のある授業を他の大学生が受講目的にやって来るという仕組みである。実は今回その起点となったのが、国立大学法人と歌山大学における教養科目「消費者市民と社会」であったのだが、そこでいくつかの不都合が生じた。

そもそも本事業においては、事業主体が大阪府であるため、対象となるのは大阪府民あるいは大阪府に所在する大学の学生という限定がある。その結果、本年実施した大学授業の、本来の授業対象者である和歌山大学生のうち、居住地の違いによってリーダーとしての資格認定に関して差が生じることとなった。要するに大阪府民であれば学生リーダーになれるが、和歌山県民はなれないというような状況に陥ったのである。そこで今回、事業開始前の春の段階から和歌山県における当該領域（消費者教育）の担当部局である「和歌山県消費生活センター」と折衝を進め、結果として和歌山県にも大阪府と同等の資格認定事業を立ち上げてもらえることになった。結果として、先の大学授業の一部を「和歌山県消費者教育青年リーダー養成講座」としても位置付けることで、居住地を問わず、ほぼ同等の公的資格認定を行うことができるようになったのである。

この仕掛けは、もともとはすべての受講者に対し、居住地によって生じる不利益を避けるために行ったものであるが、結果として、大阪府と和歌山県という異なった自治体の同種の事業について広域かつ統一的に行いうる結果となり、行政の空間区分を越えた、広域における市民教育活動としての連携が期せずして達成されることとなった。今回は大学授業としての事務手続き上の流れから、たまたま実現したものだが、実際、居住地と日中の生活の場が異なることは日常的に起こることであり、物理的モビリティの現状を鑑みれば、行政管轄によって消費者市民教育を区分することに、あまり合理性はない。こうしたことから、今後の展開としては、大阪府、和歌山県に隣接する奈良県、さらに京都府や兵庫県とも広く連携する形で消費者教育に関する担い手育成を進めていくことが望ましいと考える。

<追記>

講座受講者の居住地による資格認定の問題について、上記のような問題意識に基づいて継続的に論議と検討を重ねた結果、最終的に学生は、大阪府内において消費者教育の普及啓発活動（ボランティア等）を行うことになるため、年度途中ではあるものの、従来の「大阪府在住又は在学」という認定要件を、今年度1月には「居住に関わる要件は問わずに認定要件を満たす受講者には資格認定する」に変更となった。

④ SDGs

この取り組みを始めた平成25年において、私たちの依拠する法制は基本的に「消費者教育推進法」であった。その後2015年、国際連合における特別総会においてMDGs（ミレニアム開発目標）の改定として「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、これによって西暦2030年に向けたSDGs（持続可能な開発目標）が合意された。その内の12番目となる「つくる責任、つかう責任」は、現代における消費者教育の基本理念である「消費者市民の育成」と明らかに連なるものであり、それは私たちが当初より目指した理念でもある。ここにおいて私たちは、自分たちの取り組みが日本のみならず国際的、かつ未来に向けた地球的規模の共通課題であることを認識し、SDGs 17項目における他の諸課題との関係性を踏まえつつ、国内外の連携・連帯のなかで進めていくべきことを再確認するものである。翻って、本事業の実施主体である大阪府においては、来たる2025年に国際万国博覧会の開催が予定されており、そこでは“SDGs”の達成が大きなテーマとして位置付けられている。そこにおける一翼として、当該事業が果たすべき役割

は決して小さなものではないと考える次第である。

以上のような展望に立ちながら、より広義の「消費者教育」に関し、今後も大いに持続的な発展を期したい。